新しき朝鮮

第一章 序說

逞ましき前進

禿山の赤土山の山つゞき悲しき國をつくれるものかな

曾つて某歌人が嘆いた如く、赭土色の禿山と洗濯する白衣婦人、これが二十年前或は十數年前までの朝鮮の印象であり悲しい現實でもあつた。それがどうであらうか、其後僅か十數年の時の流れが單に禿山を綠と化したばかりでなく、急激に轉換する世界歷史の飛躍は、御稜威の下アジア十億の民を率ひて起つ皇國日本の大東亞共榮圈建設といふ大いなる聖業の進展と共に、その一環として起ち上つた朝鮮を我が大陸經營の兵站基地として育て上げ、今やその逞ましい姿だけでなく半島朝鮮の性格そのものまでも一變してしまつたのである。

そこには洗濯を一日の仕事とした白衣婦人の代りに「部落勤勞奉仕隊」旗の下に田の草取りや神祠の淸掃にわき目もふらぬ婦人達の眞摯な姿があり、また黃昏の街を流れるアリランの哀調に代つて勇壯な軍歌が、靑年隊の大地をしつかと踏みしめる靴音と共に市街を行進してゆく。郊外の荒廢した丘陵は切り拓かれて工場の煙突が黑々と煙を吐き、所々に殘る赤土山の斷層は、日夜ひたすら米英擊滅を目ざして敢闘する重要地下資源開發の生產戰場なのだ。曾つては自らの希望を混濁せる視野の中に見失ひ、誤れる思想の阿片を自棄的に

求めた學生層と青少年達は、いま烈しい聖戰の荒浪に魂を洗はれ、はじめて日本人として殉忠の血を捧げることによつてのみ東亞十億の指導的中核民族たるの誇りを享受し得るといふ無限の希望を見出し、將來に約束されたその榮譽ある地位を自らの努力と貴い義務の遂行によつて獲得すべく、徵兵制實施に爆發させたあの日の感激を其儘しつかと抱いて、召される日に備へて日夜たゆみなき錬成に精進を續けてゐる。

曾つて「悲しき國」と詠んだ歌人は、今この戰ふ朝鮮の烈しい氣魄と逞ましい現實を直視して果してなんと詠むであらうか。

朝鮮は前進する。その目標はたゞ一つ「皇國日本の無窮の發展と共に」

朝鮮は前進する。堂々とそして力强い二千六百萬同胞の潮のやうな前進の跫音に、我々はしばし耳をすまさうではないか。

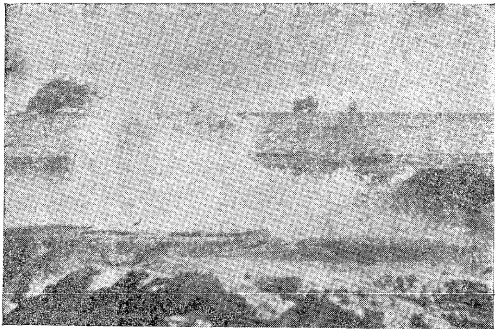
內鮮の關係

改めて地圖を擴げてみるまでもなく、朝鮮は日本々土と玄海灘を距てゝ滿洲大陸に續く大陸半島である。然しその兩方の歷史を繙いてみるときに三千年前の神代から現在に至るまで朝鮮と日本內地とが如何に一體不離の關係に結ばれてきたか。それを朝鮮側からみるときは、眞の朝鮮史は寧ろ陸續きの大陸より海を距てた日本內地との關係にはじまり、絕へざる日本の庇護の下に成長して今日遂に育ての親の懷にかへつた、といふことが出來るのである。

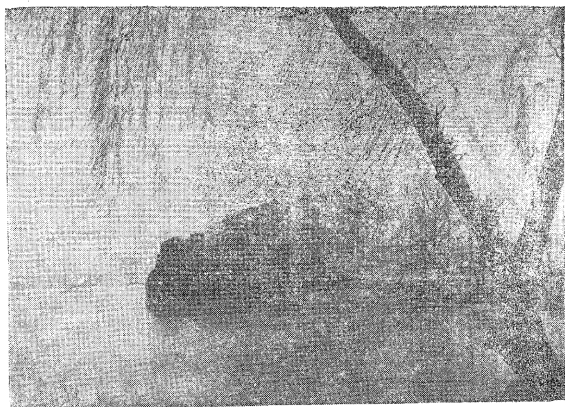
〰傳說にきく〰……日本書紀に見える素戔嗚尊の說話は餘りに有名である。高天原を追はれになつた素戔嗚尊がその子五十猛神と共に新羅の國に下り、曾尸茂梨に居られたが、後更に埴土を以て舟を作り東の海を渡つて出雲の國に赴かれたと

いふのである。（曾尸茂梨の地については、現在朝鮮語の發音から江原道春川の牛頭山といふ說と、蘇那伐、卽ち昔時新羅の都であつた慶尙北道慶州といふ說と二つある）我が國武門の名家甲斐源氏の祖として知られる新羅三郞が尊崇した大津の新羅明神は、この素戔嗚尊の本身文珠大士を祀つたものといはれる。

　また日本で最も古い地理書である出雲風土記に見える國引の傳說や、垂仁天皇の御世新羅王子天日槍（あめのひほこ）が、聖天子の國日本にあこがれて王位を弟に讓つて來朝し、但馬の國に住んだといふ話は既に廣く知られてゐるが、一方朝鮮にもこれに似た傳說は可なり多い。その一つに、日本側の國引說と深い關係ある次のやうな興味ある話が傳へられてゐる。

　新羅の第八代阿達羅王の四年のことである。東海の濱に延烏郞、細烏女といふ夫婦が住んでゐた。延烏郞はある日海に藻をとりに行つた時ちよつと巖の上に乘つたところがその巖が彼を乘せた儘日本に行つてしまつた。日本の人達は彼をみて「これは尋常な人ではない」と言つてそ

雄大な東海岸の風景
（江原道海金剛附近）

の土地の王様にしてしまつた。細烏女はいくら

百濟滅亡の際王朝と運命を倶にした宮女二千が落花の如く
水中に投じたといふ扶餘の自溫臺落花巖と白馬江の流れ

待つても夫が歸つて來ないので海邊に行つて見ると巖の上に夫の草鞋が脫いであつた。その巖は亦彼女を日本に居る延烏郞の許に運び、細烏女はそこで王妃になつた。ところがこの二人が去ると新羅は日や月の光がなくなり眞つ暗になつてしまつた。その時「この國にあつた日や月の精が日本に去つてしまつたからだ」と言ふ者があつたので、新羅の王は早速使を日本にやつて二人を歸らせやうとした。然し二人は「自分がこゝに來たのは天の命である」と言つて遂に歸らず、細烏女の織つた絹の布を渡して、これで天を祭るやうに言つた。そこで使は新羅に歸つてこの旨を王に復命して言はれた通りに天を祭ると、失はれた日や月はまたもとの如く光り明るくなつた。その祭つた所を迎日縣と名附けた」

歴史は語る

……傳說以後に於ける日本と朝鮮の深い交涉は史實が判然りと物語る通り、三國時代、新羅一統時代、高麗時代を經て近世朝鮮

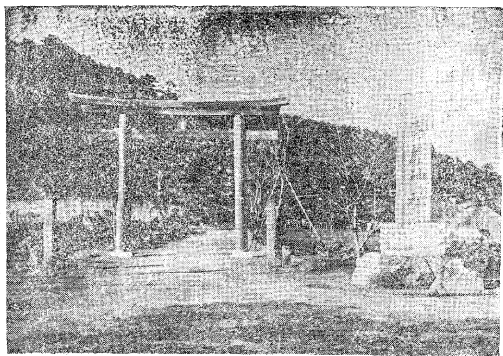
に至るまで、その間幾多波瀾消長こそあれいつの時代を通じてみても常に兩者は唇齒の關係にあつたことは明らかである。それは單なる友好とか親善とかいふ外交的關係に結ばれたものではなく、絶へず大陸からの北方民族の侵略に脅やかされる朝鮮が、日本勢力の庇護によつて生長し、また八紘を掩うて宇と爲す日本肇國の理想が、その大陸經營の前進基地として朝鮮に確固たる根據を置いたところの所謂同生共死の關係に結ばれた血緣であるといへる。

日本にとつて朝鮮半島は大陸へのかけ橋である。これは昔も今も變らない地理的絶對條件である。大東亞共榮圈建設の大事業が着々と進展する現在、その兵站基地たる重大使命を果しつゝある半島が、曾つて大陸文化の吸收時代にその唯一の流入ルートとしての役割を有したことはむしろ當然であらう。そして日本の風俗、思想、產業、藝術その他生活樣式の一切に亙つて朝鮮が直接的に大きな影響をもたらしたことは、幾多の考證を持ち出すまでもなく動かすことの出來ぬ事實である、日本は一貫する傳統の上にこれらの文化を攝取咀嚼し日本化

百濟時代の佛像
(奈良法隆寺の百濟觀音像と全く同じ)

することによつて一つの偉大な日本固有の文化をつくり上げ、それを身につけたのであつた。

一方これは大陸の文化人と、美しい平和と神の國日本に憧がれる人々の續々たる來朝となり、その歸化をもたらした。その中でも朝鮮人の歸化者が最も多數を占めたことは、地理的關係からむしろ當然であらう。特に日本と一體的關係にあつた百濟や高句麗の滅亡後、唐や新羅に服することを潔としないその遺民が日本に亡命する者が多かつた。我が國の記錄によると新羅、高句麗、百濟の歸化人を最初東國地方におかれたが、元正天皇の靈龜三年（一三七七年）には關東、中部地方に散在する高句麗人千七百九十九人を武藏野（埼玉縣入間郡）に移して高麗郡を建てさせたとある。この高麗人の統率者であつた人が、文武天皇から「王」といふ姓を賜り、從五位下白髭明神として祀られる王若光で、その地には今も高麗神社があり、現在同神社の神主は王若光より五十七代の後裔に當る。

この他內地各地には、これら歸化人の住んだことに因んで名附けられた地名が三百を越え朝鮮人

高麗神社（埼玉縣入間郡所在）

を祀つたと考へられる神社も相當にある。

また平安朝時代の初め、嵯峨天皇の弘仁六年（一四七五年）に勅命によつて出來た新撰姓氏錄は、左右兩京及び畿內五ヶ國に籍を有する名家千百七十七氏が系圖を作り、それを整理したものである。當時は系圖を大別して、皇別（天皇より分れたもの）神別（神代の神々の後裔の內皇族を除いたもの）諸蕃（歸化人）の三つとしてゐたが、その千百七十七氏の中、諸蕃が三百二十六氏を數へられることによつても如何に我が國に於て歸化人が優遇されたかが判り、昔から現代に亙つて我が國知名人に多數の歸化朝鮮人の後裔があるのである。

朝鮮の概貌

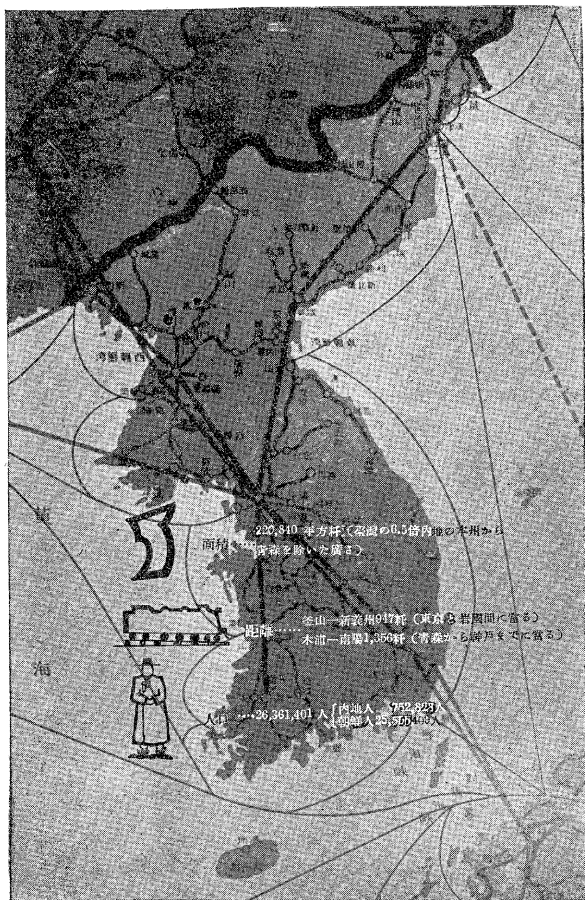
「誤れる認識」……これはまだ最近の話である。內地から京城に轉勤になつた或る人が內地を發つて赴任するとき、友人から清津に住むといふその友人の親戚に言傳と土產物を賴まれた。其人は京城に着けば清津などいつでも行けるだらう。といふ氣で輕く引受けて赴任したが、サテ京城に落付いてから鐵道案內で調べてみたら驚いたことには京城から清津までは七五七・九キロあつて、京城を朝八時半頃の急行で發つと清津着は翌朝の六時過ぎ即ち二十二時間近くかゝることを知つてびつくりしたといふのである。七五七・九キロといへば、東京から青森までよりまだ二三・五キロも遠いのである。內地なら福岡から東京に轉勤する人に、青森への言傳を賴む人も、また賴まれるやうな迂濶な者も居ないだらうが、これ程內地に居る人達は朝鮮の面積や地理にさへ認識の足らぬ者が多いのは殘念ながら事實だ。

それは學校の敎科用や、一般に發行されてゐる日本地圖に罪がある、といふ人もある。尤も學校敎科用の地圖をみると本州を奧羽、關東、近畿、中

部の諸地方に分け、そして九州、四國、北海道、樺太、臺灣、朝鮮と同じやうに一枚宛に分けて何れも本州の一地方並に扱つてあることが、迂濶にも朝鮮の大きさを本州の一地方や九州臺灣などと同様に錯覺させる一つの原因と考へられないこともない。然しそれのみで認識不足の罪を地圖に押しつけることは些か言ひ譯じみてはゐないだらうか。

こゝで少し不平を言はせて貰ふならば、滿洲事變以來國民の眼が一齊に北方大陸に向けられると多くの人々は大陸經營の大經綸を論じ猫も杓子も滿洲熱に浮かされたが、その多くはたゞ向ふ岸のことのみに氣をとられて足許の橋のことをすつかり忘れた遠視眼が多かつた。支那事變に際して示された半島朝鮮の兵站基地としての役割は心ある者の認識を改めたとはいへ、依然多くの内地の人人は足許の橋が二十年前のものではなく内容外觀共に全く一新されたものであるといふことに氣が附かない者が多いやうだ。更に其後大東亞戰爭に發展し南方問題が國民の視野に大きく迫ると共に人は口を開けば大東亞共榮圏の建設とその指導的一億日本國民、といふが、然しその一億國民の四分の一以上卽ち二千八百萬人が朝鮮同胞であることが判然り意識してゐる人が果してどれだけあるだらうか。また曾つて數年前、朝鮮の忠清南道々廳移轉問題といふのが帝國議會で矢釜しい政治問題となつたことがある。この時盛んに反對論を吐いた議員の中で實際に忠清南道の道廳がどの邊にあるのか、問題の公州と大田が一體どんなところか全然知らなかつた者が多かつた、とは宇垣總督が或る席上で皮肉つたことである。

それは兎に角、一般に内地の人々は餘りに朝鮮に對して無關心に過ぎる、と我々は言ひ度い。言ひ換へれば朝鮮はもつと内外の人達から眞の姿と價値を知られなければならぬ。それは朝鮮の爲、などといふケチ臭いものではなく、大東亞建設と

西朝鮮灣
東朝鮮灣
黄
海
面積……220,840平方粁（臺灣の6.5倍内地の本州から青森を除いた廣さ）
距離……釜山—新義州947粁（東京と岩國間に當る）
木浦—南陽1,356粁（青森から神戸までに當る）
人口……26,361,401人｛内地人752,823人
朝鮮人25,505,409人

いふ大きな視野から要請される國家的使命と信ずるのである。

〔面積と行政〕……北は二百一里九町の日本一の大河川鴨綠江と豆滿江によつて滿洲國及ソ聯（極く一部）領と境し、日本海と黃海を東西にふり分けて兎の形に突出た半島朝鮮の總面積は二二〇、八四〇方粁である。內地本州の總面積は二三〇、五三二方粁であるから丁度それから靑森縣を除いたものに當る。況してや九州、臺灣とは比較にならぬことと當然で、全鮮十三道中一番大きい咸鏡南道（道は內地の府縣に當る）だけでも三二、〇〇〇方粁に近く、これは臺灣本島（三五、五七〇方粁）九州本島（三五、六六〇方粁）より幾分小さいに過ぎぬ。四國（一七、六六〇方粁）に至つては朝鮮で五番目の慶尙北道に及ばず、最も小さい忠淸北道ですら內地では第十四位の熊本縣（七、四二八七方粁）に匹敵する廣さである。何も行政單位の廣いことを自慢する譯ではないが、郡でも一番大きな平安北道の江界郡は五、四〇三方粁、その大きさは三重、愛媛に次いで內地では二十六番目の縣となる。

面積の序でに距離を紹介すると、東南端の釜山から西北端の新義州までは鐵道粁數で九百四十七粁、丁度東京から山口縣の岩國間に匹敵し、西南の木浦から東北端の南陽までは同じく千三百五十六粁で實に靑森から神戶間の距離である。

各道別の面積及人口を示すと次の通りである。

（人口は昭和十七年末の推定調査による）

道名	面積	總人口數	內鮮別數	人口密度	道廳所在地
京畿道	一二、八三〇	三、二三三、八五六	內 二〇六、六二七 鮮 三、〇〇八、四九五	二五一・六	京城府
忠淸北道	七、四一八	九七九、四三三	內 九、四一七 鮮 九六九、五七八	一三二・〇	淸州邑
忠淸南道	八、一〇六	一、六六七、八四〇	內 二六、二三八 鮮 一、六三八、五八二	二五〇・七	大田府
全羅北道	八、五七四	一、七二一、一六三	內 三五、三六三 鮮 一、六八四、五二九	二〇〇・七	全州府
全羅南道	一三、八八七	二、八一七、五八五	內 四五、二五〇 鮮 二、七七一、六三七	二〇三・七	光州府
慶尙北道	一八、九九八	二、六三四、七四三	內 四五、二四四 鮮 二、五八八、九三九	一三八・七	大邱府
慶尙南道	一二、三〇四	二、四七〇、三五三	內 九八、九七四 鮮 二、三七〇、九三三	二〇〇・七	釜山府

黄海道	一六、七四四	一、九五六、一五六	內 二六、一八九 鮮 一、九二六、一六六	一一六・八	海州府
平安南道	一四、九三九	一、八四一、四三三	內 五一、二六三 鮮 一、七八二、五〇一	一二三・三	平壤府
平安北道	二八、四四七	一、八九六、二九〇	內 三三、二五三 鮮 一、八三六、六〇三	六六・六	新義州府
江原道	二六、二六三	一、八六六、二六〇	內 二一、一〇一 鮮 一、八四四、〇三八	七一・〇	春川邑
咸鏡南道	三一、九七八	二、〇五四、九六五	內 七三、九九〇 鮮 一、九七二、六一七	六四・二	咸興府
咸鏡北道	二〇、三四六	一、二三一、二三四	內 七八、九二五 鮮 一、一四〇、七〇八	六〇・四	淸津府
總計	二二〇、八四〇	二六、三六一、四〇一	內 七五三、八二三 鮮 二五、五二五、四〇九	一一九・三	

十三道はこれを行政區域に細分して二十一府、二百十八郡、二島(濟州島と鬱陵島)百十四邑、二千二百十一面となり、更に邑面の下に里洞がある。卽ち道は內地の縣、府は市、邑は町、面は村里は字に當る。そして道の行政長官は內地と同じく知事、市長に當るものは府尹(但し官吏)と呼ばれ、郡には郡守、島には島司、邑面には邑長、面長が置かれてゐる。

また各道には決議機關たる道會(議長は知事)があり、道會議員は府邑會議員及面協議會員の選擧によることになつてゐる。府及び邑には意思機關たる府會及び邑會(議長は府尹及び邑長)、面には諮問機關として面協議會(議長は面長)があり、これらの議員は何れも一般選擧によつて選出される。

一　人口と朝鮮同胞

……朝鮮の人口は今日一口に二千五百萬と稱せられるが、これを正確に言ふと昭和十七年末現在に於ける總督府の推定統計は二千六百三十六萬一千四百人(此の中朝鮮人二千五百五十二萬五千四百人)となつてゐる。これに內地在住の朝鮮人百五十萬と在滿朝鮮人百五十六萬、在支朝鮮人八萬七千を加へると朝鮮同胞の總數は二千八百餘萬に達し、これは日本の總人口一億に對して二割八分近くを占める。といふことはこの二割八分の朝鮮同胞を除いては日本の人口は一億にならぬといふことである。

全鮮の人口密度についてみると一方粁平均一一九・三八人となり、最も低い咸鏡北道の六〇・五〇人は問題にならぬとして一番稠密な京畿道は二五

一・四五人で、漸く昨年末から內地本州の平均以上に達した。斯くて併合の明治四十三年末僅かに一千三百萬であつた人口は其後三十三年にして二千六百萬人即ち丁度二倍となつた譯である。殊に近年に於ける朝鮮の人口增加率は異常なものがあり、昭和十六年の出生と死亡率の差は一六・〇一で、支那事變直前の內地人口增加率一三・六五を遙かに凌駕してゐる。地方的に增加傾向の著しいのは京畿道、平安南、北道、咸鏡南、北道であつて、これは京仁線(京城、仁川間)平壤、新義州、興南、淸津等工業地帶の發展と地下資源開發の促進によるものである。

いま人口順に朝鮮の十大都市を擧ぐれば次の如くである。(昭和十六年末現在本府調査による推定數で外國人を除く)

都市名	總數	內地人	朝鮮人
京城	一、一一四、〇〇四	一六七、三四〇	九四一、一〇一
平壤	三八九、一〇五	三二、二〇七	三五二、九一四
釜山	三三四、三一八	六一、四三六	二七二、六一〇
淸津	二三四、三八八	三一、六五九	一九九、六〇九
仁川	二二〇、二四二	二一、七〇三	一九六、一三六
大邱	二一〇、九一四	二〇、六八二	一八九、九三九
新義州	一一七、七〇六	一〇、六六〇	一〇三、一四二
元山	一二二、一八五	一四、七三〇	一〇六、一五八
咸興	一一九、二七九	一三、一二五	一〇六、三四六
城津	八七、一七二	一〇、〇九六	七六、五六九

即ち第一位京城府の百十一萬は名實共に內地の六大都市に次ぐもので、其他平壤、釜山、大邱、仁川等古くから主要都市として發展して來たところを除くと、何れも北鮮の新興都市の急速な發展膨脹が示されており、そこに產業基地朝鮮の伸びる現實の姿と使命が看取されるであらう。

內地人に希む

〔內地人の指導的使命〕……然しそれ一度び朝鮮在住內地人の數に至つては、全くお恥しいと言はうか總人口二千六百萬に對して僅か七十五萬二千八百二十三人、即ち施政三十有三年にし

て全人口の三％にも達しない有樣である。

勿論今日の朝鮮が戰ふ日本の重要な一環として戰爭遂行に大きな役割を果し、朝鮮同胞また盡忠報國の至誠に燃え皇國臣民としての自己錬成を高めつゝあるその眞摯な姿は全く昔日のものでないことは言ふまでもないが、然しそれを指導し、皇國臣民的完成を促進するにはその兄分たる內地人の努力と責任が一段と加重されるとき、この貧弱な在鮮內地人の數は朝鮮統治上に一つの大きな問題を提起するのである。卽ち一億日本の重要な構成單位として內地人と共に東亞共榮圈の指導的中核となつてゆくべき二千五百萬の朝鮮同胞が、擧つて皇國臣民として完成する日が一日早ければ早いだけ日本の戰力は增强され、また大東亞建設の聖業は推進されるのである。從つて極言すれば、それが成る成らぬは朝鮮人自らの努力如何に負ふこともとよりとはいへ、一半の責任は指導的立場にある內地人に負はされてゐると言はねばならぬ。その意味からも內地人はもつと朝鮮の國家的使命を再吟味再認識して、一人でも多く來鮮して貰ひ度ひものである。

〔內地の朝鮮同胞〕……現在朝鮮同胞は半島以外に、內地に約百五十萬、滿洲國に百五十六萬、支那に八萬七千人ある。殊に內地に住むこれら百五十萬の朝鮮同胞は日常生活を通じて內地人と常に一緖に在つて內鮮一體を理窟拔きに實踐しつゝあるだけに、これを指導感化して眞の皇國臣民たらしむることは非常に重大な問題であると共に、一面からいへば數に於て絕對的に內地人の多い內地に於てこそそれは朝鮮に於けるよりも容易でなければならぬ筈である。ところが實際問題としてはそれが仲々容易にゆかぬところに現實の惱みがあるのである。

その原因の一つは內地在住朝鮮同胞の大多數が比較的階層の低い勞働者層である爲、國語の不充分や、衣食住生活の相違其他樣々の缺點が目立つ

ところから、兎角内地人側から一概に「朝鮮人は駄目だ」とか「朝鮮人は困る」の一言で片附けられ排斥せられ勝ちなことである。勿論これら勞務者に限らず一般に朝鮮人が指摘される多くの缺點をもつてゐることは事實である。然し中には單に慣習や趣味の相違からくる誤解もあり、またそれが自分達の可愛い弟分であるならば、その缺點は矯めてやり長所はよく伸ばして勵まし育てゝゆくといふ態度こそ兄分たる内地人に希ましいのである。

在内地朝鮮同胞の問題で重視すべきいま一つの問題は、一萬九千人(この中東京だけで一萬二千)に上る中等學校以上の在學者に對する指導誘掖である。これら在留學生は歸鮮後半島の中堅的智識層として活躍すべき者達であるが、それだけに彼らに對する内地に於ける指導が一歩誤まれば思想的にも生活的にも破綻を來し、その結果一般朝鮮同胞に與へる影響が大きいのに鑑み總督府ではかねて東京に朝鮮奬學會を設け、内地遊學朝鮮人學生の入學推薦、指導監督から就職の斡旋まで行つてゐる。殊に一番惱みの種は就職問題で、これらの中に些かも内地人に劣らぬ優秀な者も居るが、内地では單に十把一からげに「朝鮮人は困る」といふことで採用されぬことは折角伸びつゝある有爲な半島青年から希望を奪ひ惡化させることになる。そこで總督府で今度鮮内各官廳、銀行、會社はもとより、内地側官廳、會社等と折衝を重ねた結果、十八年度卒業生から内地側でも各方面に人員を割當てゝ採用して貰ふことになり、このことが直ちに在留學生達に非常に明朗な希望を與へ一段と皇民的自己修練につとめつゝあることはまことに喜こばしいことである。

第二章　朝鮮統理の進展

統治の大精神

日本の韓國併合こそ實に皇道精神によつて推進せらるゝ近世々界史的轉換の第一歩であつた。明治四十三年八月二十九日、韓國併合に際して渙發せられた詔書に於て

「民衆ハ直接朕カ綏撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ增進スヘク……（中略）……東洋ノ平和ハ之ニ依リテ愈々其ノ基礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕カ信シテ疑ハサル所ナリ」

と仰せられ、更にまた大正八年八月朝鮮總督府官制改正に當り

「（前略）朕夙ニ朝鮮ノ康寧ヲ以テ念トナシ其ノ民衆ヲ愛撫スルコト一視同仁朕カ臣民トシテ秋毫ノ差異アルコトナク各其ノ所ヲ得其ノ生ニ聊シ齊シク休明ノ澤ヲ享ケシムルコトヲ期セリ」

と詔せられた所によつて瞭らかな如く、畏くも大御心はただ内鮮一視同仁、齊しく皇澤に浴せしめらるゝにあつた。言ひ換へれば内鮮一體こそ朝鮮統治の大眼目といへるのである。從つて歷代總督の統理もこの御聖旨を體して一意内鮮一體の强化に努力されて來た。今日顧みて武斷政治と言ひ、また文化政治と稱するも、要はただこの一つのものに副ひ、一つのものを目標として、その時代々々の實情に卽應する施政の道筋に外ならないのである。

而して内鮮一體の意義は、一つに祖先的な血の

繋りに基く必然的そして發展的還元であり、その意味で朝鮮同胞が眞に皇國臣民として　天皇に歸一し奉ることである。このことが往々にして内鮮人間に誤解され勝ちで、内鮮一體とは今直に内鮮間一切の形式的區別を撤廢することか、或はまた撤廢すべきことかの如く考へ議論する向がないでもないことは甚だ遺憾といはなければならぬ。即ち改めて言ふまでもなく内鮮一體の問題は單なる形式ではなく、あくまで本質であり、而もその基底は國體の本義に基く道義である。さればこそ二千五百萬朝鮮同胞は、眞に皇國臣民として自らを高め完成すべく撓ゆみなき努力を續け、内地人はまた率先窮行してこれを勵まし導き、内鮮相共に携へて道義朝鮮の確立を目標に熱鐵の錬成に精進してゐるのである。

歴代總督の統理

朝鮮は總督施政以來昭和十八年十月一日で滿三十三年になる。この間總督を迎ふること八代、政務總監は十人を數へる。いまその在職時期を表示すれば次の通りである。

總督	時期	政務總監	時期
1 寺内正毅	自明治四十三年十月 至大正五年十月	山縣伊三郎	自明治四十三年十月 至大正八年八月
2 長谷川好道	自大正五年十月 至大正八年八月		
3 齋藤實	自大正八年八月 至昭和二年十二月	水野錬太郎	自大正八年八月 至大正十一年六月
		有吉忠一	自大正十一年六月 至大正十三年七月
		下岡忠治	自大正十三年七月 至大正十四年十一月
（代理 宇垣一成）	自昭和二年四月 至昭和二年十月	湯淺倉平	自大正十四年十二月 至昭和二年十二月
4 山梨半造	自昭和二年十二月 至昭和四年八月	池上四郎	自昭和二年十二月 至昭和四年四月
5 齋藤實	自昭和四年八月 至昭和六年六月	兒玉秀雄	自昭和四年六月 至昭和六年六月
6 宇垣一成	自昭和六年六月 至昭和十一年八月	今井田清德	自昭和六年六月 至昭和十一年八月
7 南次郎	自昭和十一年八月 至昭和十七年五月	大野緑一郎	自昭和十一年八月 至昭和十七年五月

8小磯國昭自昭和十七年五月　田中武雄自昭和十七年五月

〔寺内總督時代〕……初代總督元帥寺内正毅大將は、明治四十二年五月曾禰荒助子爵の後を受けて第三代統監として來鮮し、韓國併合により同四十三年十月一日總督府開設と同時に陸軍大臣のまゝ初代總督を兼任した。（翌四十四年八月專任總督となる）そして大正五年十月首相の印綬を帶びて内地に去るまで、統監時代から通ずると滿八年間に亙つて專ら朝鮮統治の基礎確立に盡瘁した。

當時韓國併合の大業は平穩無事の間に遂行されたとはいへ、なほ匪徒の殘黨は各地に出沒し、時代の推移に自ら眼を掩ひ總督統治に徒らに反感を有する徒輩も決して少くなく、且つ半島の山河は多年秕政の結果荒廢を極め、爲に物心共に萎靡振はざるの實情にあつた。從つて重大な朝鮮統理の第一歩を踏み出すに當つて、先づ治安の維持と生命財産の安固を以て第一の要諦とされたことは理の當然であり、一面これと併行する行政、產業、敎育の各般施政にも思ひ切つた革新を斷行した。人呼んでこれを武斷政治と評したが、蓋し施政創業の時期に處して朝鮮統治の將來に搖るがざる根幹を築いたその努力と功績は實に偉大なものがある。この寺内總督が、現在我が陸軍の長老で大東亞戰爭勃發當初から南方方面陸軍最高指揮官として不滅の武勳に輝く元帥寺内壽一大將の嚴父であることは周知の通りである。

〔長谷川總督時代〕……次いで第二代總督として就任した元帥長谷川好道大將は、在任約三年、その期間が比較的に短かゝつたのと未だ創業時代の域を脫しなかつた爲、專ら前總督の方針を踏襲し產業第一主義を以て臨んだのであるが、當時第一次歐洲戰爭の末期に當り、その混沌たる政治經濟上の國際的影響は遂に大正八年三月所謂獨立萬歲騷擾事件を惹起したことは未だ世人の記憶に新たなところである。これは朝鮮が將來に大

きく飛躍生育する過程に於て、必然的に經驗しなければならなかつた痲疹的症狀であつたともいへやう。

齋藤總督時代……齋藤統理は、中に一年八ヶ月の山梨總督時代を挾んで第一次及第二次を通じ前後十年二ヶ月の長きに亙り、その駘蕩たる溫容と共に朝鮮の慈父として親しまれた。當時既に施政以來十年の歲月を閱して、創業劃策の時期から漸く完成の期に入り、一應地均しは終つたといふものゝ歐洲戰後の思想經濟の混亂は未だ收まらず、鮮內に於ても獨立騷擾事件の直後を受けて治安狀況は決して樂觀を許さなかつた。齋藤總督自身、南大門驛頭着任の第一歩に爆彈の洗禮を受けたのであるが、これに對して愈々任に莅んだ齋藤總督は、專ら文化政策に重點を置き、內鮮融和、民意暢達に意を用ひた。卽ち從來の憲兵警察制度を普通警察制度に改め、また官吏や敎員の制服帶劍を廢し、諺文新聞の發刊認可等つとめて春風和光を洽からしめんことを期したのである。稱して文化政治といふも、もとより統理の根本方針は常に一貫して異る所はないのであるが、前代創業の苦心の上に漸く文化の向上が策されたのである。就中朝鮮自治制度確立の基礎的階梯として大正九年に地方制度の改正を行はれ、初等敎育の普及も大正十一年度をもつて三面一校計畫を完成、昭和四年以降一面一校計畫に着手すると共に、大正十一年には朝鮮美術展覽會の開設、同十三年京城帝國大學の創立、翌十四年には全半島の崇敬をあつめて官幣大社朝鮮神宮の御造營が成り、其他京城放送局、總督府圖書館、林業試驗場、水產試驗場、衞生試驗室、感化院等各般に亙る文化的施設は相次いで充實を見るに至つた。また現在白堊の偉容を誇る總督府廳舍も大正五年着工以來十年の日子と六百七十五萬圓の巨費を費して同十五年に竣成した。

なほ山梨總督時代は大體に於て齋藤統理の延長であつたといへる。

宇垣總督時代……かくて昭和六年六月

齋藤總督に代つて第六代總督として宇垣一成大將の登場をみたのであるが、宇垣總督は既に第一次齋藤總督時代齋藤總督が帝國代表としてゼネヴァの國際會議に出席中、僅か五ヶ月半ではあつたが代理總督をつとめたことがあり、朝鮮統治については全くの白紙ではなかつた。而もその就任と殆んど同時に滿洲事變の勃發を見、翌七年三月には滿洲帝國の建國となつた。更にこれを契機として我が國は國際聯盟を脫退して大東亞建設に毅然たる決意を示すと共に愈々內外共に、非常時の樣相は深まつていつた。この狀勢を看取した宇垣總督は、この時既に我が國の大陸政策遂行に當つて必然的に朝鮮がその前進的兵站基地たる重要役割を荷負ふべきことを達觀する一方、かねてから朝鮮民衆を精神的にまた物質的に向上させ總督統治に悅服せしむるには、全鮮に積極的に產業を興し、彼らに勤勞愛好の精神と更生の希望をもたせることが最も緊要であるといふ持論によつて、飛躍的產業開發政策が實行された。こゝに朝鮮は施政二十年の充分な基礎の上に愈々物心兩面に亙つて劃期的飛躍をみるに至つたのである。

宇垣總督は就任の第一聲に「朝鮮人を樂に喰はせること」を以て統理方針として率直に聲明したが、その第一は先づ農山漁村振興と自力更生運動として强力に展開された。この運動は所謂南棉北羊、及び北鮮開拓と共に宇垣統理の三大施策といはれるが、其他多彩を極めるあらゆる產業政策も歸するところはこの自力更生運動を根幹とされ、從つて產業政策こそ宇垣統理を一貫する方針であり、農山漁村振興運動は最大の施策であつたといへるであらう。

由來朝鮮には春窮といふ言葉がある。秋から冬の終りにかけて有るだけの食糧を喰ひつくし、翌年麥の收穫をみるまでの春季端境期に於ける食糧缺乏の意味である。朝鮮の總人口の八割は農民であるがその大部分は所謂細農で、併合以前永年に

亙る歷政に殆んど勤勉、節約、貯蓄の美風を失ひ一般に生活向上の自覺に乏しく、年々歲々食糧の不足を訴へ高利の負債に喘ぎながら、春窮季には草根木皮によつて辛うじて一家の糊口を凌ぐといふ狀態にあつた。これを匡救し根本的に打開する爲には單なる救濟事業による勞銀撒布などでは駄目で、農家それ自身の自覺による生活改革に俟つより外なく、こゝに自力更生を基本とする農山漁村振興運動に行政のすべてを集中努力したのであつた。當時二百三十萬戶と推定された窮乏農家は逐次年度計畫によつて更生部落及更生農家に指定され、營農法と家計生活の改善を各戶別に指導した結果、指定された部落は數年ならずして負債を償還し食糧の自給を得るといふ統治上劃期的な成果をもたらすと共に、この組織と指導の素地がその後に於ける朝鮮の精神總動員運動から國民總力運動に至る母體となり基礎となつたことを見逃すことは出來ない。

其他初等教育の擴充、地下資源の開發就中產金奬勵、治山治水事業等半島產業經濟の全面的飛躍時代の基礎を劃するに至つた。

〔南總督時代〕……宇垣統理を第一期建設時代とすれば、その後を受けて約六年間朝鮮統理に盡瘁した第七代南總督時代は建設第二期といふべきであらう。而もその期間は帝國にとつても愈よ大東亞共榮圈建設といふ世界史的大事業に乘り出し、一億國民の總力を結集して支那事變から大東亞戰爭へと突入したのである。一方これによつて帝國の有力な一翼たる朝鮮は大陸兵站基地としての使命と地位を明確にされると共に、それは同時に南統理の性格と方向を必然的に決定したのであつた。卽ち一口に言へば從來の撫育的政策を一步前進して、新東亞建設の國策遂行に積極的に協力寄與せしむるため急速なる皇國臣民化の徹底である。

かくして南統理の五大政綱は、國體明徵、鮮滿

一如、教學振作、農工併進、庶政刷新、として掲げられた。今この大方針によつて施策された六年間の足跡を顧みてみやう。㈠國體明徴に於ては、皇道精神の普及徹底により全鮮二千五百萬同胞の皇國臣民化卽ち內鮮一體の促進を圖るため、先づ敬神觀念の强化を期して一面一神祠計畫の遂行と各戶に大麻奉齋の普及、皇國臣民の誓詞制定、官幣大社扶餘神宮御造營着手、教育令の改正、志願兵制度實施、氏の創設、と進み更に徴兵制實施決定へと發展をみるに至つた。㈡鮮滿一如政策は、先づ總督就任劈頭(昭和十一年十一月)北鮮圖們に於ける南總督と梅津關東軍司令官の第一次會談に基き、鴨綠江開發鮮滿共同技術委員會の組織、鴨豆兩江の鮮滿間橋梁架設、鴨綠江水力發電計畫、鮮滿連絡會議の開設並に鮮滿食糧交流、と着々具現された。㈢教學振作は國體明徴を基本とし、內鮮人教育の差別撤廢と皇國臣民教育の教科要項を强化する朝鮮教育令改正を初め初等教育の大擴充を行ひ、國語の普及常用徹底に努めた。㈣農工併進は、大陸兵站基地たる半島の使命に基き、食糧の增産確保と併行して地下資源開發、水力電氣の闢發利用による各種工業の振興が圖られ、一方經濟統制の强化と相俟つて半島產業經濟の戰時體制を確立されるに至つた。㈤庶政刷新としては、本府及地方行政機構の改革を斷行し、又昭和十三年國民精神總動員聯盟を結成し、これは同十五年に發展的解消により國民總力聯盟となり、行政機構と表裏一體關係に於て全鮮二千五百萬官民總力結集の一大國民運動を展開された。

第三章　小磯統理とその性格

統理の理念

「道義朝鮮の確立」……昭和十七年五月二十九日、大東亞戰爭下の重大時期に第八代總督の大命を拜した小磯國昭大將は、六月十七日釜山上陸と同時に諭告を發し

惟フニ朝鮮統治ノ方針ハ一視同仁　天皇陛下ノ臣トシテ秋毫ノ差異アルコトナク各々其ノ所ヲ得其ノ生ニ聊シ、齊シク休明ノ澤ヲ享ケシムルコトヲ期スベキコト、炳トシテ既ニ聖慮ニ昭示セラルル所ニシテ實ニ我ガ國不動ノ鐵則タリ、歴代總督皆深ク此ノ聖旨ヲ奉體シテ統理ニ精進シ、衆庶亦克ク施政ニ協力シテ以テ今日ノ隆昌ヲ致セリ、之レ蓋シ官民上下相率ヒテ國體ノ本義ニ徹シ、以テ皇道ヲ八紘ニ恢弘セムトセル崇高ナル理念發露ノ證左ナラズンバアラズ、而シテ半島ノ興隆ト聖戰目的完遂ノ爲必須不可缺ノ要件タル國體本義ノ透徹ニ至リテハ朝野尚未ダ十分ナラザルノ憾アリ、就中半島衆庶ノ現狀ニ於テ其ノ然ルヲ認ム。庶幾クハ　聖勅ニ遵由シテ更ニ一段國體ノ本義ニ徹シ、皇國臣民タルノ自覺ヲ徹底向上シ、內鮮一體ノ歸趨ヲシテ徒ラナル形式的同調ニ墮セシムルノ悔ナキヲ期シ以テ唯一誠、天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼シ奉ルノ實ヲ示サザルベカラズ、此ノ如キハ單リ半島同胞自ラ其光榮アル將來ヲ開拓向上スル所以タルノミナラズ亦以テ光輝アル大東亞經綸ノ顯現ニ參與

スル途ナリ

と諭すところがあつた。次いで京城着任後重ねて聲明を發して

大東亞の建設は日本皇道を基として大東亞民族に人間最高の道義を布くことであります。抑もこれを布かんとするものに道義なくしては指導國民たることを得ざるはもとより明かであります。日本全國民の道義修錬はこゝに於て絶對肝要なることいふまでもなく、この點朝鮮に於て特に强調して官民の猛省を促したいのであります。

と述べた。

この就任劈頭發せられた二つの聲明によつて既に小磯統理の性格は闡明され、これをよく熟讀玩味することによつてその根本理念が把握されるのである。卽ちその理念は、朝鮮統治の鐵則たる「內鮮一體」が單なる字義的また形式的な內鮮卽時平等を意味するものではなく、朝鮮同胞が眞に皇國臣民として完成することこそ內鮮一體の窮極の道であり、その光榮ある將來の地位を約束されるものであることを明確にし、而もそれを完成する爲には內鮮人等しく「國體の本義」に徹し、內鮮一體が遠く悠久の昔に遡り同祖同根に淵源してゐることを認識すべきことを强調してゐる。而して國體の本義は實に崇高なる「道義」にあつて、各人がこの道義を深く修錬徹底することによりて明朗なる朝鮮を確立することこそ、大東亞建設に朝鮮が負荷された重大使命を完遂する鍵であると喝破し、爾來「道義朝鮮の確立」を目指してあらゆる施策をこれに集中し、民衆の日常生活の面にまで道義の浸透を圖りつゝあるのである。

理念の具現化

「當面の三大施策」……蒞任以來半歲、專らその抱懷する根本理念の周知徹底に努めつゝあ

つた小磯總督は、決戰の年昭和十八年を迎ふると共に、全鮮官民に對する元旦の放送並に一月四日總督府新年御用始式に於ける訓示に於て

「本總督の責務は、全鮮二千五百萬官民が國體の本義透徹を以て道義朝鮮の確立を期するにあることを莅任以來半歳の間機會ある毎に强調して來たのであるが、これは旣に概ね疆内に徹底周知せられたので、本年は愈よ時局に卽應してこの理念を實踐に移すこと丶する」

とて㈠修養錬成の徹底的實踐、㈡生產戰力の決勝的增强、㈢庶政執務の劃期的刷新の三要綱を明示するところがあつた。

これを要するに、道義朝鮮の確立を期するためには各職域にある二千五百萬官民が悉く國體の本義に徹すべく、徹底的に皇國臣民的修養錬成を實踐窮行することが最も急務であることは言ふまでもない。而も志願兵制度を經て愈よ徵兵制が實施された今日その意義は更に重要であるばかりでなく、喰ふか喰はれるかの決戰下に半島全民衆があらゆる困苦缺乏に堪え、あくまで必勝の信念に燃えて聖戰完遂に滅私奉公するの氣魄と決意を培ふためには、各人が進んで自己修錬に務むることが緊要とされるのである。次いで決戰下戰力增强に最も緊急を要請される國內資源の總動員と生產の增强に當つて、食糧をはじめ各種物的資源と人的資源を豐富に包藏する朝鮮の生產力增强が如何に重大な使命を有するかは贅言を要しない。また庶政執務の刷新については、衆庶に對する指導者としての官公吏の地位が內地に比して著しく高く、その一言一動の衆庶に及ぼす影響が甚大であることに鑑み、小磯總督は就任以來特にその點を重視し機會ある毎に吏僚の反省修養を要求してゐるところである。卽ち官公吏は自ら常に省察し指導者としての教養研鑽につとむべきはもとより、常に民情の動向を察して法規命令の實施等所謂上意下達に當つては溫情を持して繁を厭はず反覆指導に

より衆庶をして喜んで總督の方針に歸一せしむること、また下意上通に方つては阿諛迎合を避け、愼重熟慮の結果眞意なりと信ずることに對しては假令上司の面を冒してもこれを進言主張し、縱橫の連絡については割據獨善を戒め協調を强化すべきことを注意してゐるのである。

而して以上の三點は言はゞ小磯統理の根底を爲すものであり、更に個々の施策については一々豫めスローガンなどを掲げず現實に卽して逐次實行に移すことを方針とされてゐるが、就中徵兵制實施に伴ふ諸準備と、義務敎育制實施決定並にこれが準備については萬善を期して進められてゐる。其他海軍特別志願兵制の實施、行政簡素化に伴ふ機構の大改革、朝鮮敎育令改正、大陸（鮮、滿、支）連絡會議の定期的開催、國民總力聯盟機構の强化、朝鮮電力管理實施、農地開發營團及び食糧營團、重要物資營團等の設立、國內決戰體制强化に伴ふ再度の劃期的行政機構改革等、各般の施設に着々と具現されつゝあるのである。

第四章　兵站基地朝鮮の新使命

大東亞の兵站基地

「兵站基地」といふのはもと〳〵軍の戰略用語である。戰爭の勝敗を決する重大な一要件が前線補給の確保にあることは昔も今も變りないが、その爲には戰場に最も近く、而もその基地自體として自活しつゝ同時に前線への補給をも確保し得る、といふところが兵站基地として最も理想的であらう。其意味で半島朝鮮が大陸兵站基地とよばれること故あるかなといはねばならぬ。

それは第一に地理的條件は今更言はずもがな、施政三十有三年の努力の上に築かれた朝鮮の實力は、産業、經濟、食糧、交通、其他あらゆる部門に於て自活を確保すると共に更に進んで前線への補給力を培養し、殆んど無限に埋藏する地下資源の種類と量は東亞共榮圏内に於ても得難い物資も多く産出し、それを増産工業化する條件としては低廉豐富な電力と比較的餘裕ある勞力を保有してゐる。それに加へて盛り上る愛國の至情と、大東亞建設の聖業にその中核的指導者として參加し得る光榮ある希望に燃えて今こそ聖恩に酬ひ奉るべき秋と誓ふ全鮮二千五百萬の朝鮮同胞がある。滿洲事變がその決意を促した一の契機とすれば、支那事變こそは兵站基地朝鮮の性格と使命を明確に決定した歷史的一頁であつた。

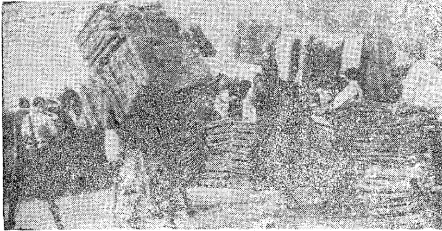
而して大東亞戰爭への新な發展と共榮圏建設の進展は、朝鮮の兵站基地的使命をも更に一歩押し

進め强化を要請されるに至つた。即ち當面する我が國の決戰的戰力增强に當つて、南方占領地の豐富な物資も船腹其他の關係で今直に國內生產への寄與が餘り多くを期待し得ないとき、朝鮮が有する特殊物資や勞力に依存する度合は益々加重され、こゝに漸次兵站基地朝鮮の性格は所謂大陸兵站基地から更に前進して大東亞兵站基地としての新たな使命を負荷されるに至つたのである。

米の朝鮮

大增產計畫……「米の朝鮮」の名は既に古い。それは半島總數の七割（併合當時は八割三分三厘であつたが漸時減少）が農業であるといふこと、現に水產をも含んだ農產物總生產額の五割以上が米であり、それはまた輸移出總額の四割を占むるといふことが示してゐる。卽ち始政當初僅かに百萬町步に過ぎなかつた水田は三十餘年にして既に百七十萬町步に達し、從つて米產額も亦一千萬石から二千五百萬石（昭和十二年度は二千六百七十九萬七千石）へと驚異的躍進を示し、平年に於ては七百萬石乃至九百萬石の米を輸移出することは單に半島經濟の根幹を爲すといふに止まらず、一面からは實に朝鮮は米と共に成長し米と共に發展してきたと言つても過言ではあるまい。殊に支那事變以來食糧の增產確保が直に戰力と重大關係を有することが認識され、更に昭和十四年朝鮮の大旱害が我が國の食糧事情に一大異變をもたらして以來、內地の人々も朝鮮の天候を自分の食糧生活と關連して切實に案ずるやうになつたのも、思へば朝鮮米にとつて一沫の感慨なきにしもあらずである。

事實今では大いに肩身を廣くする朝鮮米も、その辿つてきた過去の道は決して平坦なものではあり得なかつた。大正八年齋藤總督の水野政務總監時代は第一次產米增殖計畫が實行されその結果每

年五、六百萬石の輸移出餘力を生じ、更に下岡政務總監時代は內地の米不足を補ふべく大正十五年から十二ヶ年に八百萬石の增收をはかる第二次產米增殖計畫を樹立されたのであるが、その後昭和八年頃になつて財界の不況と共に內地に米の過剩をみるやうになり農村は一層窮境に立つに至つた。そこでこれは朝鮮米の移入壓迫によるものだ、といふ內地側の勝手な反對で遂に增產計畫は途中にして打切りの運命となつたのである。ところが其後數年ならずして文化の進展と農家經濟の向上及び鑛工業の勃興によつて鮮內の米穀消費量は逐年增加し、殊に支那事變勃發後は急速に內外地を通じて米穀需給の窮屈を招來するに至つた。それに加へて昭和十四年の大旱害は果然戰時下食糧確保の强化が大問題となり、朝鮮でもこゝに改めて昭和十五年から昭和二十五年までに主として農事改良により六百八十萬石の增產計畫を樹立されたが、更に其後の食糧狀況に鑑みて總督府では昭和十七年度に計畫を更新

愛國班は糧叺の增產供出にも挺身

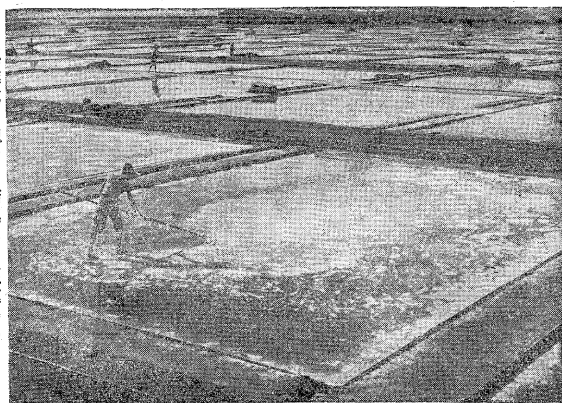
して、昭和三十年までに土地改良によつて六百十九萬石、農事改良によつて五百十九萬石合計千百三十八萬石を增收し總生產量三千四、五百萬石、この中內地に每年八、九百萬石移出を確保することになつた。曾つて帝國議會に於て朝鮮の產米增殖に反對した人達の感懷は如何と言ひ度いところである。

また戰時下必需食糧は米ばかりではない。其點朝鮮の畑作は、殘念ながら從來の米穀偏重によつて殆んど放任され、大豆を除いては却つて年々百萬石乃至二百萬石の雜穀を滿洲及び內地から輸移入してゐた狀況であるが、總督府では時局の要請に應じて米穀と共に麥類、甘藷、馬鈴薯の增產に乘り出し、麥類は昭和十六年度以降五ヶ年間に五百六十八萬石增產により總生產量一千八百六十六萬石の確保を期す外、粟、大豆、薯類についても耕種法の改善と品種の改良によつて增產をはかりつつある。

なほ序でに一言し度いのは、米の生產費の問題で、增產計畫による所謂計費は一反步當り百三十四圓、一石當り七十三圓で、卽ち一石四十圓の賣値としても二年間では完全に回收される譯である。內地に比して格段に有利であることは、內地中小商工業者の轉業問題にも一考される價値は充分と思はれる。

米の實收高

年次	反當收量	收穫高
明治四十三年	六七九石	一〇、四〇五、六一三石
大正三年	九五二	一四、一三〇、五七八
大正八年	八二六	一二、七〇八、二〇八
大正十三年	八三九	一三、二一九、三二二
昭和四年	八四〇	一三、七〇一、七四六
昭和九年	九七七	一六、七一七、二三八
昭和十二年	一、六三五	二六、七九六、九五〇
昭和十三年	一、四五四	二四、一三八、八七四
昭和十四年	一、一六三	一四、三五五、七八四
昭和十五年	一、三一一	二一、五二七、三九三
昭和十六年	一、五一二	二四、八八五、六四二
昭和十七年	一、二一〇	一五、六八七、五七八

最近の食糧事情……然し最近半島それ自體としての食糧事情は決して樂なものではない。直接的には昭和十四年の大旱害に引續く十七年の旱魃と水害によるもので、從つて十八年には施政以來未曾有の困難な試練に直面するに至つた。卽ち十七年の米雜穀合せて約一千三百萬石の大減收は、極力糧穀の供出促進と消費規正の强化によつてもなほ不足を生じ、遂にこれまで年々內地に移出してゐた米が出せなくなつたのみか、却つて今度は逆に鮮外から五百萬石程度の補給を仰がねばならなくなつたのである。昭和十八年四月內地の同胞はこの狀況を見て不足する自分達の食糧を割いた骨肉の愛情籠る食糧五萬俵を、旱害見舞として大政翼賛會から國民總力朝鮮聯盟を通じて朝鮮同胞に贈つてきた。これこそ內鮮一體の現はれであり、全鮮二千六百萬同胞は心からその同情を感謝し受けたのであつた。同時にその感情は新たな決意となり、農村に於ける糧穀の供出と都市に於ける消費節約は愈よ强化徹底され、更に增產目標達成に總力を結集して邁進しつゝある。

鹽田

かくて日滿支を一體とする食糧自給の國策に基き、內地と大陸の中間に要位を占むる朝鮮は誓つて食糧兵站基地の重大使命達成を期してゐるのである。

勃興する重工業

今や大東亞戰爭は苛烈凄慘な決戰が續けられてゐる。敵が唯一の賴みとするところはその尨大な生產力であつて、もとより皇軍の善謀勇戰は絕對に必勝の信賴がかけられるとはいへ、それを一層强力化し敵に最後の止めを刺す途はたゞ一語「國內の戰力增强」に盡きる。而して當面戰力增强に最も緊急に要請されるものは直接兵器となり輸送力となる重工業の超飛躍的增產といへやう。

半島に於ける重工業の歷史は決して古いものではない。宇垣總督時代「日本海の湖水化」と共に北鮮開拓が策せられ、次いで支那事變の勃發と共に南總督の農工併進政策となつて所謂北鮮時代を現出したのがその開花であつた。そして小磯總督によつてそれは「決勝的生產力の增强」實現に邁進しつゝある。

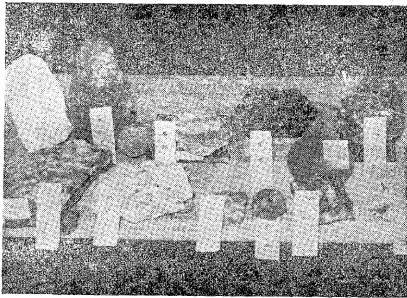
地下資源の寶庫……重工業の二大要素として地下資源と電力が擧げられるが、半島に於てその何れも旣に萬點の折紙がついてゐる。昭和六年末金輸出禁止と宇垣總督の產金獎勵政策と相俟つて、文字通り產金王國を現出した時代も今は過ぎ、時局は鐵、石炭をはじめ特殊鑛の開發時代となつた。

鐵 は咸鏡南道利原鐵山及び平安南道壽鑛山の赤鐵鑛、平安南道价川及び黃海道載寧、銀龍、下聖、兼二浦の赤褐兩鐵鑛、咸鏡北道茂山、江原道襄陽、三和の磁鐵鑛がある。就中茂山鐵山は品位に於て三八%程度の貧鑛ではあるが、その埋藏量は優に南滿洲の鞍山鐵山を凌ぐと稱せられ、且つ純粹の磁鐵鑛のみで選鑛容易な點は斷

山よりも稼行が有利といはれる。この他江原道三陟の磁鐵鑛、咸鏡南道端川の大鑛床も着々開發準備が進められてゐる。

石炭　は咸北の吉州明川、鏡城、會寧、雄基、慶源、慶興の各炭田を主として平南の安州、黃海の鳳山、慶南の慶州等

半島に產出する多種多彩な鑛物

以上何れも褐炭で、總埋藏量四億廽と推定されてゐる。また無煙炭は有名な平壤の寺洞炭坑をはじめ江原道三陟及び寧越、咸南高原、全南和順、慶北聞慶、平南北部一帶其他數ヶ所あり、推定總埋藏量約十三億五千萬廽、これは無盡藏といつていゝ數字である。

黑鉛　電化工業用として國內供給の百％を負荷される黑鉛は、坩堝、電極、カーボン原料となる鱗狀黑鉛が平北江界地方（大馬々、江界、咸章洞、城干孟洞、勝榮、時中の各鑛山）咸北城津地方（城津、新興兩鑛山）平北楚山郡地方（市東、楸谷、車嶺各鑛山）及び伏木、完玉、碧潼の各鑛山から產し、また土狀黑鉛は山野月明（忠北）小宮（同）馬老（同）咸昌（慶北）永興（咸南）長興（同）价川第一、价川第二（平南）等が最も著名で何れも國內需要に對する自給目標を殆んど滿してゐる。

タングステン鑛　現在稼行中の主なものは小林百年、箕州、中川青陽、鯨水、順鏡山、上東、平安、內金剛各鑛山等で、その他金剛山一帶、平

北昌城郡、平南陽德郡、寧遠郡、咸南長津郡、忠北忠州郡、堤川郡、黃海谷山郡、忠南靑陽郡等が主な產地であるが、世界的有名な金剛山がタングステン盜掘團に荒されて、景勝保存と資源開發の二筋道に惱んだなども一挿話であらう。

螢石 は江原道金化、春川、楊口、華川、淮陽の各郡、忠北永同、堤川兩郡、全北錦山郡、黃海載寧、平山兩郡、京畿抱川郡等に分布し、最近愈よアルミニウム工業の緊急增產と共に急速にその開發を要請されてゐる。

雲母 咸北、平北、咸南各道に分布し、その主な鑛山は咸北林洞鑛山、碑手鑛山、平北芦田洞鑛山等で、その產出の全部は朝鮮雲母開發販賣株式會社の手を經て內地に移出されてゐる。

マグネサイト は咸北吉州郡(南溪、白岩)咸南端川郡(北斗、龍陽)が大部分を占め、就中龍陽鑛山は埋藏量三十億瓲と推算される世界的大鑛床である。

水鉛鑛 全北の長水、江原の金剛、忠北の忠州重石、大華、慶北の龍鳳水鉛各鑛山の外に最近續々新鑛床が發見されてゐる。

明礬石 はアルミニウム原料として特に重要なものであるが、全南、慶南に多量賦存し、その主要鑛床は全南の寶川、加沙島、玉埋山各鑛山等である。

ニッケル鑛 江原道伊川郡板橋面、咸南咸州郡德山面、慶北星州郡草田面其他に最近發見され目下急速に開發準備が進められてゐる。

燐鑛 咸南端川郡南斗日面、咸北城津郡鶴西面、平北龍川郡加次島、平南平原郡永柔面に於て有望な燐灰石鑛床が發見され、南斗日面の新豐燐山、永柔面の永柔鑛山は旣に着々生產實績を擧げてゐる。

コバルト鑛 慶北慶山郡押梁面、慶南咸安郡艅航面、咸北會寧郡八乙面其他各地に發見されつゝ

あり、鑛量も相當豐富である。

滿俺鑛　主要なものは慶北奉化郡小川面、江原金化郡遠南面などである。

この他稀有金屬としてセリウム、トリウムを含むモナズ石やタンタル石、小藤石、紅柱石、霞石なども發見され、まさに地下資源の寶庫たる名に背かない。なほ我が國内で産出する重要鑛物資源中、朝鮮に依存する昭和十八年の割合とその開發實績を示すと次の通りである。

品名	十八年度全國生産額中朝鮮に期待さるゝ割合	十七年度の期待量に對する實績割合
黑鉛	一〇〇%	九四%
雲母	一〇〇%	六五%
コバルト鑛	一〇〇%	三九%
螢石	九一%	九六%
タングステン鑛	八四%	一〇四%
モリブデン鑛	六七%	一一〇%
石綿	六二%	九一%
鉛	五二%	八五%
鉛鑛石	五一%	八四%

〔**製鐵**〕……豐富な鐵鑛と石炭に惠まれる朝鮮の製鐵事業は、大正七年日鐵兼二浦製鐵所を濫觴とし、其後我が世界的發明である高周波電氣製鐵法による日本高周波重工業會社の城津工場が生れ、次いで清津に茂山の鐵鑛と北鮮及東滿の石炭を利用する日鐵製鐵所及び三菱鑛業製鐵所（廻轉式爐）が出來、「鐵の戰爭」に日夜增産の煙を黑々と吐いてゐる。また特筆すべきことは、建設に莫大な資材と人力と二年以上の時日を要する從來の製鐵用鎔鑛爐に代つて、最近總督府では鮮内に無盡藏に埋藏する無煙炭を利用し而も少い建設資材で出來る朝鮮獨特の小型鎔鑛爐の建設を奬勵し、旣に〇〇基が操業され、其の他にも〇〇基建設中で、戰時應急の製鐵增産に寄與するところ多大なものがある。

〔**輕金屬**〕……當面一にも飛行機二にも飛行機といはれる航空機增産のアルミニュームとマグネシューム工業は、電力の豐富低廉と工場敷地に

惠まれる朝鮮が最も理想的條件を有してをり、アルミニウムは既に生産中の日窒興南工場及び理研金屬鎭南浦工場の急速擴張の外、昭和電工は鎭南浦に、住友金屬は元山に、東洋輕金屬は新義州に何れも南方占領地のボーキサイド鑛から出來るアルミナを更に電解してアルミニウムを作る大規模工場を建設中で殆んど完成しつゝある。またマグネシウムは咸北のマグネサイトを原料とする日本マグネサイト興南工場、關東州産の苦汁を原料とする東洋金屬新義州工場及び三菱マグネシウム鎭南浦工場があり、理研金屬でもマグネシウム工場を建設準備中である。

〔化學工業〕……長津江と赴戰江の水力電氣を利用して咸南の興南に勃興した近代化學工業は、朝鮮窒素（現在は日本窒素に合併）の硫安工業を母體として化學肥料、油脂、爆藥、アルミニウム、其他數十種に上る一貫的東洋一の大化學工業地帶を現出し、朝鮮が誇る自慢の一つとなつた。この他石炭、液化工場、石油工場等が決戰下の化學工業に多大の寄與を爲してゐる。

〔金屬工業〕……地下資源が豐富なことは從つて金屬精錬工場を必要とし、京城、鎭南浦、元山、長項等に大規模な精錬所が日夜增産を續けてゐる。

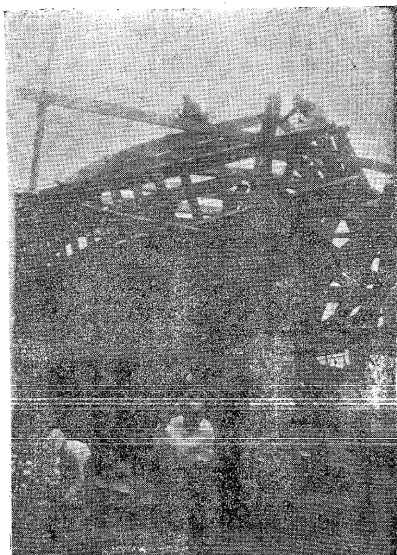
〔造船工業〕……朝鮮は三方を海で圍まれてゐながらこれまで造船工業は比較的遲れ小規模な修理工場のみであつたが、最近に至つて、戰時下喫緊の大規模な造船工業が興り、國家の要請に應へつゝある。

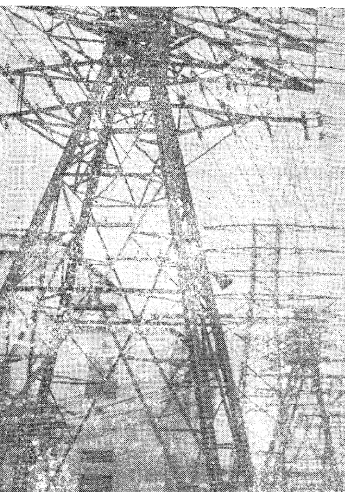
〔機械工業〕……從來朝鮮の機械工業は小規模なものばかりで、地下資源の開發や近代的大工場建設に要する機械器具類は殆んど內地からの移入に依存してゐたが、最近に至つて諸工業の勃興に刺戟され大規模の鑛山用機械、電氣機械、車輛

其他の機械器具製造工場の新設擴張を見、其結果工場數は支那事變勃發の昭和十二年に比し二・二倍、その生産額は五倍以上に達し、既に相當程度まで鮮內自給が出來るやうになつた。

豐富良質な電力

「水力電氣王國」……「電力は動力でなく原料である」。これが朝鮮に於ける電力の使命と電氣事業の全貌を端的にあらはす言葉であらう。事實朝鮮の近代工業は豐富低廉に惠まれた水力電氣を母體として勃興し、その相衡ぐ開發を背景として發展したのであつた。

北鮮咸南の分水嶺、赴戰嶺を境として鴨綠江に流れ込み黃海に注ぐ赴戰江を堰き止めて海拔千餘米の高原に一大人造湖を造り、この水を延長三十粁に及ぶ隧道と鐵管によつて日本海側に逆流させその落差を利用して美事發電に成功した赴戰江水力電氣の完成は、我が國水力發電に一劃期をもたらすと共に現在の日窒興南工場地帶出現の一頁となつた。續いて同じく朝鮮水力電氣會社の優秀技

木造船工場

術陣は同一の方法によつて長津江水力電氣の工事を完成し、更に虚川江、鴨綠江の水力發電を實現するに至つた。この他咸北の富寧水力、中部朝鮮を流れる漢江水力、全北蟾津江及び錦江を利用する南鮮水力、咸北西刀水々力、と各水力發電が次々と完成或は工事の進捗をみ、更に今後計畫中の豆滿江禿魯江、淸川江、大同江、南漢江、洛東江の各水力電源竝に德川炭田、三陟炭田の火力發電、仁川沖の潮力發電等が開發實現すれば、半島の全電力量を○○キロワットと稱する日もさう遠くはあるまい。而も現在までの發電が寧越の火力發電を除いて殆んど全部が水力發電であるところに、半島の電力が特に「良質」といはれる所以であらう。即ち朝鮮に於ける水力發電の特質とされるのは、一年の降雨量が季節によつて變動が甚しい爲内地の水路式發電法に對して貯水式發電法をとつてをりまた補給火力に依存する要がないことは一キロワット當り建設費に於て内地に比し三百圓位安くつき、從つてその發電の規模が大きく大量の電力が定時に供給され且つ電力料金が低廉で濟む、といふ三拍子揃つた條件は朝鮮の最も强味とするところである。

就中支那事變勃發と同時に着手された鴨綠江水力電氣開發は　戰ふ日本の全力と科學技術の優秀

伸びる送電線

を世界に示した世紀的大事業であり、悠久數千年の興亡の影を映して滔々と流れる鴨綠江を七ヶ所で堰き止めて七つの大人造湖を造るといふ夢物語を美事實現し、これより後に完成したと傳へられるアメリカのボルダーダムに次いで世界第二を誇る水豐の大堰堤完成によつて發電を開始、續いて目下第二期義州堰堤工事が進められつゝある。斯くて懷かしい鴨綠江節に唄はれた國境名物筏流しは永久に姿を消す運命になつたが、其代り昨年末に第一期計畫(水豐發電所)は完成し、これによつて鮮滿の工業電力は餘裕綽々たる供給を確保することになつた。

〔電力國家管理〕……一切を擧げて戰力增强に集中動員すべきとき、半島產業の推進力たる電力もまた國家的統制の完璧を要請されることは當然であらう。その意味で昭和十八年三月末公布された朝鮮電力管理令はまことに大きな意義を有する。

朝鮮の電力統制は、昭和六年今井田政務總監當時既に內地より一步先に發送電網計畫によつて基礎が確立され、次いで昭和十四年十月朝鮮電力調整令によつて電力の國家總動員態勢が强化されることになつた。然し其後の狀勢は、戰局の進展に伴ひ電力に負荷される生產力增强の要請が急激に增大した結果、從來第一次統制大綱による發電の民有民營、送電の國有國營、配電の四ブロック統一、といふ方針を更に一步强化する必要を認められるに至り、總督府では愈よ發、送 配の電力三部門を通ずる電力國家管理を實施することになり、十八年八月同令に基く特殊會社朝鮮電業會社の創立をみたのである。これによつて朝鮮の電氣事業は、從來の朝鮮水力、朝鮮送電、富寧水力の三社を合併して母體とし、更に江界水力、朝鮮電力、漢江水電、南鮮水力の各會社を吸收する朝鮮電業會社及び國境河川開發特殊發電部門のみを擔當する朝鮮鴨綠江水力電氣會社の兩社、並に配電

部門は南鮮、北鮮、西鮮、京電の四配電會社によつて整備され、今後愈々半島電力の積極的開發と計畫的配分を强化することになつた。

第五章　戰ひぬく二千六百萬

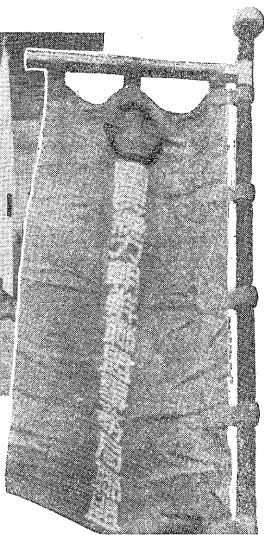
燃え上る愛國の赤誠

〔決意は固し〕……昭和十二年七月七日、この日一瞬にして地球をかけ廻ぐつた「支那事變勃發」の電波は、日本と盟邦を樞軸として急轉換する世界歴史に新たな一頁を刻んだが、それは朝鮮同胞にとつても恰も盛り上りつゝあつた愛國の血潮に火を點じたものであつた。今日もまたその次の日も、一死盡忠に燃ゆる皇軍勇士を乘せた軍用列車が半島を北上し、日の丸の小旗を千切れよとうち振つてそれを激勵する半島婦人や可憐な學童達と、またそれに應へて感激の手をうち振る勇士達との涙ぐましい情景が、驛頭に沿線に繰り展げられた。「萬歲々々！　兵隊さんしつかりやつて下さい」と列車の窓に縋りつく可憐な半島兒童の手を握つて「有難う、きつとやるぞ、君達もしつかり勉强して立派な日本人になるんだよ、戰地ではどうせ要らんお金だ、これで學用品でも買ひたまへ」と財布をはたいて與へる出征勇士、それをいたゞいた子供は嬉しさに息はづませて皇軍慰問金にと先生に差し出す。またあの街この部落から召される名譽の赤襷に、隣近所の內鮮人が一緖になつて「後は私達が引受ました、家のことは何も心配せずに御奉公して下さい」と勵まし、朝鮮神宮の大前に、部落の神祠に額づいて皇軍の武運を祈る老若男女、或はまた街頭に立つて眞心こもる千人針の一針を運ぶ纖手にも、そこに描かれる姿は

內地人も朝鮮人もない、ただ渾然たる一體の至誠だけである。

これが僅か三十年足らずの統治の成果であるとすれば、それはまことに驚異の一語に盡きるであらう。昭和十三年來朝した伊太利經濟修好使節團の團長コンティ伯が「朝鮮に來てはじめて日本の眞の姿を見た」と新聞記者團に語つたその一語こそ味はふべきである。事實、支那事變勃發當初慌しい動きから今日に至るまで最も重要な軍事輸送にもたゞ一回の事故もなく、軍官民一體となつて使命を果して來たことだけでも大いに朝鮮としては誇つてよいとは或る軍部首腦者の感謝の言葉であるが、それのみならず事變の進展に伴ひ更に大東亞戰爭に突入して愈よその愛國の熱誠は日毎に昂まり、國防獻金に、恤兵慰問に、また銃後の增產に「必ず勝ちぬかん」の決意を固めつゝあるのが朝鮮の現實の姿である。

國民總力運動……この盛り上る半島の愛國心がガッシと受け、總督府の施策と表裏一體となつて全鮮二千六百萬官民の愛國の國民運動を强力に推進するのが國民總力朝鮮聯盟である。この運動は昭和十三年七月七日、支那事變一周年記念日を期し、擧國一致、堅忍持久、盡忠報國、の三大綱と內鮮一體の具現促進を目標として發足した國民精神總動員聯盟の活動にはじまり、其後事變の進展と世界情勢の重大化に卽應する爲內地の大政翼贊運動と呼應して昭和十五年七月國民總力聯盟に改組强化を遂げると共に、物心兩面に亙る戰時國民生活の實踐に乘り出した。殊に大東亞戰爭勃發後は戰爭意識の昂揚と戰力增强の一點に集中し、皇民道の實踐と修養鍊成の强化、或は國語普及、統制經濟の運營、貯蓄の增强、國債消化、廢品回收にと、あらゆる國民運動の推進的實踐機關として總督府の行政と表裏一體の活動を續けてゐる。これが內地の大政翼贊會運動と異る第一の特異性は、絕對に政治的性格を有せずあくまで臣

愛國班朝の常會

國民總力聯盟旗

道實踐職域奉公を眼目とする國民生活の實踐運動であつて、その最下部組織は內地の隣組に當る愛國班があり、その數四十三萬に達する。殊に每朝一定時に行ふ宮城遙拜と正午の默禱は內地ではみられぬ嚴肅な風景で、ラジオや號笛を合圖に家庭で、街頭で、田園で、汽車や電車の中で、其他あらゆる職場で全鮮一齊に宮城を遙拜し、或は護國の英靈に敬虔な默禱を捧げるのである。

〖皇國臣民の誓詞〗……莊嚴の氣滿つる朝鮮神宮表參道石段の右手高臺に屹立する石造の角柱、神宮に參拜する民草は必ずこれを仰ぎみるがよく氣をつける旅行者ならば京城驛を通過するとき列車の窓からもそれは眺められるであらう。これこそ大學以下國民學校に至る全鮮五千校約二百萬の青少年學徒、學童及び敎育關係者が「我等は

皇國臣民なり」と心の底から迸る誇りと誓ひの詞を筆魂にこめ、各人一枚宛したゝめた誓紙を納めて昭和十四年秋朝鮮教育會が建立した「皇國臣民誓詞之柱」である。

今やこの誓詞は單に學徒や學童だけでなく總督以下二千六百萬官民があらゆる職場と會合の席上に於て國民儀禮の一節として必ず齊唱し、一人一人が皇民道實踐の合言葉であり座右銘として常に必行してゐる。

皇國臣民ノ誓詞（一般及上級學校用）

一、我等ハ皇國臣民ナリ　忠誠以テ君國ニ報ゼン

二、我等皇國臣民ハ　互ニ信愛協力シ以テ團結ヲ固クセン

三、我等皇國臣民ハ　忍苦鍛錬力ヲ養ヒ以テ皇道ヲ宣揚セン

皇國臣民ノ誓ヒ（國民學校用）

一、私共ハ大日本帝國ノ臣民デアリマス

二、私共ハ互ニ心ヲ合セテ　天皇陛下ニ忠義ヲ盡シマス

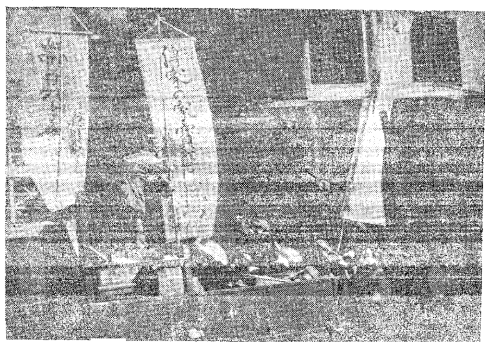
三、私共ハ忍苦鍛錬シテ　立派ナ強イ國民トナリマス

貯蓄に擧ぞる

……決戰下戰力增强の源泉としてその强化を要請さるゝ國民貯蓄の分野に於ても、朝鮮は多大の成果を收め國策に寄與しつゝある。總督府では昭和十三年中央政府の貯蓄奬勵方針に順應して朝鮮貯蓄奬勵委員會を設け、爾來逐年全鮮の貯蓄增加目標を引上げてきたが、官民また國民總力運動の重要部門としてこれが目標達成につとめ毎年目標額を突破する好成績である。試みに昭和十三年度以降の貯蓄增加實績をみると、十三年目標額二億圓に對し二億六千九百九

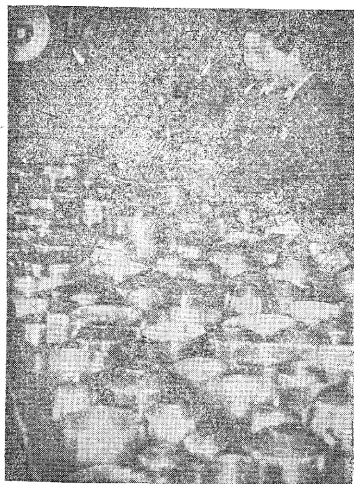
十七萬九千圓、十四年目標三億圓に對し三億九千二萬一千圓、十五年目標五億圓に對し五億七千六百三十三萬九千圓、十六年目標六億圓に對し七億五千四百八十五萬四千圓、十七年目標九億圓に對し九億九千五百十七萬五千圓と飛躍的增加を示したが、十八年度には更に目標額を一躍十二億圓、即ち十七年度目標に對する內地の增加率一割七分四厘であるのを朝鮮は特に三割三分三厘と大幅引上げに決定したのである。勿論全鮮で十二億圓の貯蓄は全國の目標二百七十億圓からみれば問題でなく、而も人口の割合と近年の生產躍進からすれば內地一縣の割當に比し一見過少の感がないではないが、然し生產資金の複雜な內鮮間移動を考慮して實際朝鮮の經濟力と、從來の貯蓄思想普及狀況からすれば生活切下げの餘力が乏しく、この貯蓄率は決して內地に劣つてはゐないといへる。而も最近五ヶ年間の貯蓄增加額三十億圓の內、郵便貯金、簡易保險、金融組合の資金及び無盡資金等大衆の零細貯蓄とみられるものが九億七百萬圓に達し、銀行預金と伯仲してゐ

國民學校兒童も貯蓄に一役

ることは貯蓄の大衆性を物語るものであらう。これは朝鮮に於ける貯蓄運動の一特色とされる行政力の强大を反映するもので、例へば俸給、

掘り出された街の鑛山

恩給年金は勿論、農林水産物等定時的收入を豫想されるものに對しては例外なく源泉天引貯蓄を行はせ、また各府邑面は各町、部落聯盟では各戸別に一年間の貯蓄責任目標額を定め、その目標達成に邁進してゐるのである。

獻金品の激增

……半島二千六百萬の沸ぎる愛國の赤誠は、朝鮮軍及び京城海軍武官府に

半島の女學生も眞鍮器を持寄る

對する獻金或は兵器の獻納となつてあらはれ、幾多涙ぐましい美談を生んでゐる。

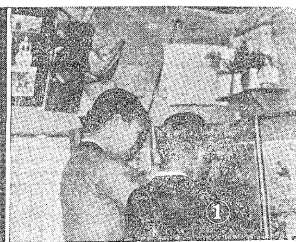
昭和十二年七月七日以降十九年一月末現在の獻金品狀況をみると朝鮮軍愛國部に寄せられたものが總額三千九百四十九萬八千餘圓、京城海軍武官府に寄せられたものが二千六百五十三萬六千圓、合計六千六百三萬六千餘圓に達してゐる。なほこれによる兵器の獻納は陸海軍合せて飛行機六百五十四臺、其他兵器四百八十二を數へ、これら獻納愛國機は朝鮮同胞銃後の赤誠を翼に乘せて、今や陸に海に敵米英擊滅に偉勳を樹てつゝあるのである。

志願兵より徵兵へ

——陸軍特別志願兵……思へば支那事變は舊い殼をつき破つた朝鮮に、新しい生命の息吹きを注ぎこむ烈しい嵐であつた。そしてこの嵐は永らく朝鮮同胞の胸底深く眠り續けてゐた日本人たる意識を勃然と喚びさまし、宿命的血の內鮮共感に火を點じたのである。「我等も日本人である以上榮譽ある皇軍の一員として醜の御楯に立ち度い」との熱望は澎湃として起り、この切なる希望に應へるため昭和十三年四月三日　神武天皇祭の佳節をトして實施されたのが「朝鮮陸軍特別志願兵令」である。これによつて半島青年も年齡滿十七歲以上の男子で總督府の陸軍兵志願者訓練所を修了した者は、帝國陸軍の現役又は補充兵役に編入され、內地人兵と同樣軍務に服し得ることになつた。この志願兵制度が如何に半島青少年達の間に希望と熱意を與へたかは、全鮮の志願者が昭和十三年度二、九六四名であつたのが十四年度には一二、三四九名、十五年度八四、四四三名、十六年度一四四、七四五名、十七年度は一躍二五一、五九四名に達したことによつてもわかる。この中には中等學校以上の卒業者が逐年增加し、鮮內はもとより遠く支那、滿洲及び內地在住者もあり、血書の志願や、反對する兩親を說得して美事合格し

たなどの美談佳話は數限りない。かくて各道と中央の二重詮衡によつて選ばれた合格者は、京城府外孔德里の第一訓練所と十七年度から平壤に設けられた第二訓練所に收容され四ケ月(十四年度までは六ケ月)の猛訓練によつて日本人としての心身の錬成を遂げ、內地人壯丁に伍して軍務に服し得る逞ましい精神と躾を叩きこまれる。そして修了後その一部は直に軍隊に入り、內地人兵と同じ取扱を受け、其他は補充兵に編入され歸鄉してそれ〴〵地方の總力聯盟推進隊員として後輩の指導に當つてゐる。

これら志願兵の入營後の成績は內地人兵に伍して何ら遜色なく、下士官候補者も續出し既に下士官となつてゐるものもある。また第一線に出征した者の中からは、戰線の華と散つた第一期生李仁錫、李亨洙兩上等兵第十期生金廣昌貞上等兵、金城義輝、山村東壽、文岩龍雄の三兵長が護國の神として靖國神社に合祀された外既に戰傷者十數名を出し、榮譽ある金鵄勳章を拜授した者も數名ある。殊に金廣、山村、金廣、文岩の四勇士は半島志願兵初の二階級進級の殊勳に輝いたのであつた。

李仁錫上等兵……戰友李亨洙上等兵と共に北支戰線の華と散つた忠北沃川郡出身の李仁錫上等兵は第一回の訓練所出身志願兵である。昭和十四年六月二十二日、山西中條山脈の戰線に於て木越部隊に屬し敵高地陣地を挺身占領したが、夜に至つて猛烈な敵の包圍逆襲を受け壯絕な近接手榴彈戰は翌拂曉まで續き、高地一帶は敵の手榴彈で火の海と化すといふ激戰を展開した。李仁錫一等兵も最後まで奮戰したが、「李一等兵出てはあぶない!」と制止する分隊長の聲を聞きながらも身近に迫つて來た敵兵に銃劍をかざして飛び込まうとした瞬間惜しくも手榴彈の爆片を身に受けて其場に倒れ、遂に最後を知るや戰友に手をとられ「天皇陛下萬歲」を奉唱して半島志願兵最初の戰死を遂げたのであつた。後で「その戰死の樣は

（1）半島人家庭の神棚奉齋
（2）朝の宮城遙拜
（3）正午の默禱

まことに壯絕、志願兵として立派なものでしたとわざ〳〵部隊長がその戰死の狀況を詳はしく總督宛報告してきてゐる。

一方戰死の公報を受けた李仁錫上等兵の出身地沃川では、何しろ半島最初の名譽ではあり、郡守警察署長以下地方の有志達が打揃つて夜分ながら同上等兵の遺族を訪れた。門前まで來て、前例もないことではあるし、餘り取亂しでもされてはと大分躊躇したのであるが意を決して門を叩き、一同を代表して郡守がその旨を告げると、父李千典氏は少しも動ずる色なく「出征の時から今日あるを覺悟してをりました。皆樣にかうして夜分にまで心配して戴いては却つて痛み入ります」と謝辭を述べ、夫人柳氏も三つになる遺兒を抱いて「立派に覺悟してをります」と健氣にも少しも取亂したところがなく、却つて一同を感心させたのであつた。この李仁錫上等兵が出征した後、母親徐氏は千人針といふものを作つて吾が子に送らうと、田舍ではとても千人の針は求められないのではる〳〵炎天下四里の山坂を越えて大田の町まで出かけ、街頭に立つて心づくしの一針を求めた。ところが出來上つた千人針を內地人に見せると、これでは餘り短かくて腹に卷くことも出來ないといふ。それではと翌日また改めて大田の町に出て、今度は婦女の多い紡績工場を訪ねて女工さんの針を求めたが、歸つてみるとこれでは多過ぎて針數が三千人にも餘るといはれた。多い分には差支へないではないかと言ふ者もあつたが、それでは折角送るのに申し譯がないからと、この母は老ひの身もいとはず三度び四里の山坂を越えてたゞ一つの吾が子に送る千人針をつくる爲に大田の町に出たのである。しかも、この淚の千人針が出來上つてやれ送らうと思つた時には、李仁錫戰死の報は痛ましくもこの母の胸をうつたのである。

待望の徵兵制實施……昭和十七年五月九日、愈々二年後の昭和十九年度適齡者から朝鮮

に待望の徴兵制を實施することに決定、この旨發表されるや全半島は一瞬曾つて經驗したことのない感激を爆發させた。この日、鮮內津々浦々は勿論、內地及び滿洲、中國等の在住朝鮮同胞は擧つて神社に報告祭を行ひ、其場から發せられた感謝と決意を表明する電報が總督の机上に山と積まれる有樣で、殊にこの輝く榮譽を眞つ先に擔ふ學徒や一般青少年達は「これで我々も愈々醜の御楯としてお國に御奉公出來るのだ」とはち切れるやうな希望と誇りに燃え、只管將來の健兵たらんことを期して日夜心身の錬成に勵み、晴れのお召しの日を待ち兼ねてゐる。次いで昭和十八年八月一日帝國陸軍兵役令の改正によつて朝鮮の徴兵制は實施をみたが、これは言ふまでもなく朝鮮志願兵の眞價が漸く認められたのと、半島の民度の向上及び愛國的至誠の發露によつて朝鮮同胞が既に一應皇國臣民としての資質を備へるに至つたと見られたことによるもので、當時發表に當つて南總督は

「今回徴兵制度の形において內鮮一體の政策は絕頂に達した。顧れば過去のあらゆる努力はこゝに達するまでの努力であつたのである」と述べた如く、過去三十有餘年の朝鮮統治の努力はまさに徴兵制の實施によつて大きな實を結んだといへるであらう。從つてこれに卽應する總督府の徴兵制施行準備も萬善を期して着々と進められ、趣旨の普及と啓蒙、戶籍と寄留屆の整備、國語の普及等と相俟つて特に昭和十七年十一月三日朝鮮青年特別錬成令を實施し、十二月一日を期して全鮮に公立七百十五、私立三十七の青年特別錬成所を開設、更に十八年度には公立錬成所一千九百四十六ヶ所を增設された。これは現在朝鮮に於ける國民學校敎育の普及狀況からみて、一般に壯丁を家庭から直に軍務に服させることは困難である實情に鑑み、差當つて未就學壯丁に對し徴兵前の豫備的錬成を爲す應急措置であり、初年度（昭和十七年十二月から十八年九月末まで）に十九年度の徴兵適

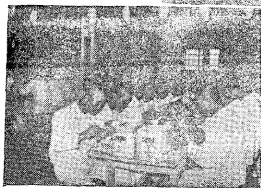
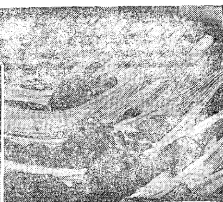
齡者中國語未解者約十一萬人のうち三萬三千二百餘人を、また十八年四月から翌年三月末までにその殘り約七萬八千八を、更に次年度からは毎年十一萬人前後の國語未熟青年を收容鍊成することになつてゐる。

海軍特別志願兵

……かくて喜びに沸く朝鮮青年に、重ねて榮譽ある快報がもたらされた。それは昭和十八年五月十二日發表された海軍特別志願兵制實施で、こゝに朝鮮同胞は名實共に世界に冠絶する憧れの

海軍特別志願兵訓練所生
(鎭海警備府檢閲濟)

夢は早や海上を驅ける

樂しい食事

皇國陸海軍の精兵として國防の第一線に立つことになつたのである。半島青年の希望と感激は如何ばかりであらう。定員の數十倍に當る志願者の中から選ばれて鎭海の「朝鮮海軍兵特別志願者訓練所」で六ケ月間の豫備訓練によつて逞ましい海の强者として海兵團に入團する第一期訓練生達は、既に昭和十八年十月一日晴れの入所を濟まし日夜猛訓練にいそしんでゐる。

半島人學徒も出陣

國運をこの一戰に賭し日々刻々凄愴苛烈な血戰が續けられてゐるとき、學園にある學生生徒だけが平常の儘で安閑と勉學にいそしんでゐる場合ではない、と若き血潮の高鳴りは、遂に全內地人學生生徒に下つた徴兵猶豫停止による卽時お召しの恩命となり、一部理科系學徒を除いた若人達は直にノートを銃に持ちかへて學園から戰地へとまつしぐらに出陣してゆく。それは勇壯といふより、

この上ない美はしいそして聖なる戰ひの詩といへやう。

かくて勇躍して決戰の庭に出で立つ內地人學友達の後姿を淋しく見送る半島人學徒達にも、續いて宏大無邊の恩命は齊しく下り、昭和十八年十月二十日臨時特別志願兵採用規則の公布となり、ここに法文系半島人學徒も內地人學友達と堂々肩を並べて直に戰列につくの光榮が與へられたのである。その名は「臨時特別志願兵」として同じく志願兵であるが、それは昭和十三年に實施された一般半島人青少年から採用される志願兵訓練生と異り六ケ月間の豫備訓練を經ずして直に入營し、內地人學兵と少しも變らず成績次第によつて直に幹部候補生たり得る恩典を享受するのだ。而もこの際兵を志願しない者は其儘休學處分となり、他の緊急生産部門に徵用されることになつてゐる。皇國男子と生れ日本國民最高の資格であり榮譽である皇軍の一員として、一般半島人には明年徵兵適齡者よりしか與へらないものを晴れて直に戰列に參加し得るこの千載一遇ともいふべき機會に惠まれながら、不覺にも志願に後れをとり徵用の不名譽を受けるやうなことがあつては半島人學徒の名折れとなるのみか、折角大東亞戰爭といふ試金石の上に置かれて眞に皇國臣民として將來の指導的地位をかち得るか否かの重大機會に際會する全朝鮮人の運命に關するものとして、果然半島人學徒の間から「學友よ俱に戰列につかう」の叫びが盛り上るや、京城法專及京城高商の在學半島人全學生揃つての志願をはじめ、釜山高水、水原高農、明倫學院、延禧專門、惠化專門、普成專門、城大豫同豫科等各大學高等專門學校から續々志願の名乘りが擧げられ、「この際一人でも洩れてはお互の恥だぞ」と呼び交はす叫びは「出陣半島人學徒大會」となつて奔る殉國の至誠を披瀝し、またこれに呼應する國民總力朝鮮聯盟では「出陣學徒壯行會」の催しを餞けとして贈る。一方鮮內各主要都

市では半島人有力者達によつて「臨時特別志願兵制度翼賛委員會」が結成され、「征け學徒よ、後は我々が護る」と地區別に分擔してそれ〲家庭訪問により本人は勿論父母姉達の啓蒙につとむれば、半島人側女專、高女の生徒達は申し合せて出陣學徒に眞心籠る千人針を贈るといふ情景を描きまた內地學校出身先輩の有力半島人達は自ら後輩激勵の一役を買つて出て內地に渡り、手分けして後輩の在內地半島人學徒を一人々々個別訪問により呼びかけ、一人殘らず後輩達が戰列につくのを見屆けずには歸らない、と出發する。

かくて徵兵に魁て今回臨時志願兵たる榮譽を擔ふ半島人學徒の適格者數は、內地在學者四千名、在鮮者一千名、合せて約五千名であるが、このうち十一月二十日の締切までには在鮮學徒の如き九割以上が志願し、中には既に職場についてゐる卒業生も相當あり、これら志願者の大部分が採用檢査に合格するといふ好成績であつた。なほ合格者に對しては內鮮在學者全部を京城に集め、十二月下旬一週間に亙つて兵となる準備の合宿鍊成を行ひ、心身共に天晴れ干城として本年一月下旬勇躍入營したのであつた。また一方適格者でありながら志願しなかつた者に對しては、二週間の皇民的再鍊成を加へた上直に鮮內の緊急生產部門に徵用配置せられた。

勞務報國を誓ふ

「勞務資源の給源地」……由來半島に於ける產業立地條件の有利な點として勞務者の豐富低廉が擧げられてきたが、今や戰局の進展は益々我が國勞務資源の給源地としての朝鮮の使命を加重しつゝある。昭和十四年以來政府の勞務動員計畫に基く內地に對する半島勞務者の供出は每年非常な數に達し、また一方軍要員としての內地、滿洲支那方面に對する送り出しも莫大な數であるが、

これら内地の增產部門に挺身する勞務者や、昭和十六年以降南方に送られてゐる海軍作業愛國團、また昭和十七年から陸軍の要求による米英人俘虜監視員など何れも豫想以上の好成績を收め、就中軍要員の中には皇軍と共に敵彈の中に活躍し壯烈な戰死を遂げた者、或は戰傷病の床に再起奉公を誓ふ者もあり、日本人として旺盛な責任感と誇りをもつて挺身精勵しつゝある。

最近の鮮內勞務需給事情は、特に昭和十四年以來內地其他の要請に基く大量供出と、鮮內產業の勃興とにより漸時逼迫してきたが、然し何といつても內地に比すればまだ〳〵相當の餘裕があり、而も內地其の他朝鮮に對する勞務者供給の要請は高まる一方である。これに對應するため總督府では鮮內農村の再編成と、婦人勞力の動員强化とによつて朝鮮に負荷される勞務給源の使命達成を期してゐるが、特に政府の勞務態勢强化決定に呼應して總督府に於ても朝鮮の勞務動員決戰態勢を强化、一切の勞力を擧げて戰力增强の一點に集中して一人の遊休勞力もないことを期し、徵用と勤勞奉仕の徹底を圖りつゝある。

資質の向上……ところで從來內地に於ける朝鮮人勞務者の評判は一般に決してよくないことは事實である。その缺點として擧げられるところは、恩義を感じないこと、忍耐力の弱いこと、怠惰で責任感が薄いこと、或は衞生觀念に乏しいことなどが數へられ、結局內地人勞務者に比して能率が劣るといはれる。勿論それは或る程度事實でもあるが、然しそれらの缺點は必ずしも彼らの先天的資質に基くものよりも、寧ろ李朝六百年の秕政の然らしめたところと國民敎育の未普及等に基因するところが多く、また一面使用者側の無理解や勞務管理の不充分に因ることも尠くないやうである。そしてその多くは數年前までの自由渡航勞務者に對する先入觀が多分にあると思はれる。總督府では昭和十四年以來內外地の增產部門或は

軍要員として供給する集團斡旋勞務者に對しては勞務協會で相當の訓練を施し勤勞報國隊として送ることにしてをり、また內地に於ける一般朝鮮人勞務者の問題については朝鮮中央協和會並に同各府縣支部が世話に當り極力資質の向上につとめると共に、一方鮮內國民敎育の漸時普及に伴つて段々と向上をみつゝあるのである。殊に最近炭坑其他重勞働者を要する產業部門からは朝鮮人勞務者に對する感謝が非常に高まり、一方勞務者側も大部分が時局を認識して勞務報國を誓つてゐる。その一つの例として、朝鮮靑年錬成所で使用する錬成敎本に採錄された「銃後も戰場」の主人公が、最近總督府の調査で偶々實在することが判つたが、その調査問ひ合せに對して主人公の就勞先長崎縣三菱鑛業高島炭坑から總督府宛にもたらされた返書を原文の儘左に掲げることにする。

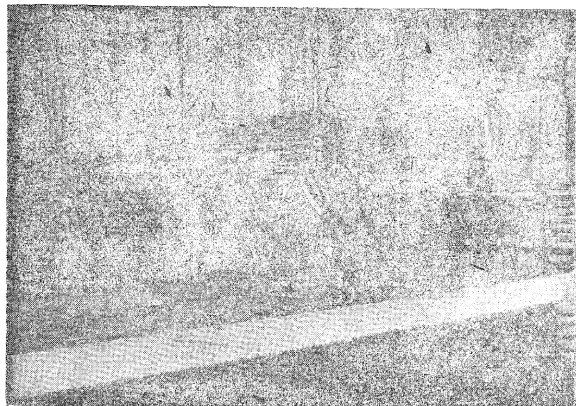
一、本籍　忠淸北道淸州郡賢都面繕洞三七二
二、入所年月日　昭和十七年九月五日
三、勤務成績　稼働成績極めて優秀にして毎月多額の國許送金、勤儉預金、郵便貯金をなし居れり。

長崎縣西彼杵郡高島村
三菱鑛業株式會社
高島鑛業所
松田進興
明治三十九年七月二十日生

四、美談　昭和十七年十月十六日第三寮事務室に一通の電報が配達された。第四分隊の松田進興宛である。
電報を受取つた係員は早速病氣で休業中の松田進興に渡した電文は『トウエイシススグコイ』とあつた。
これを見た係員は直ぐ事務室に引返し其の旨寮長に報告した。報告を受けた寮長は松田進興を事務室に呼び

『電報が來たそうだが東永といふのは誰かね』
『私の長男です、今年二十歳になります』
『おゝそれは……可愛想に……　前に何とか云つて來て居なかつたかね』
『はい先日病氣と言ふ手紙は來て居ましたが、直ぐよくなるだらうと思つて居ました』
『歸鮮しなければならぬだらうが君の體の調子はどうかね』
『體は大した事はありませんが歸鮮はしない積りです』
『なぜ？すぐ來いとしてあるではないか』
『私は面の係が高島炭坑行勤勞報國隊員を募集した際進んでお願ひして隊員に入れて戴いたのですからその役目が濟まぬ中は子供が死んだ位では歸鮮することは出來ません』
『でも君の家族は待つてゐるだらう』
『妻も子供も待つてゐるとは思ひますけれど私が勤勞報國隊員に志願したことには死んだ東永初め皆贊成して居るのですから』
『故鄕では困る樣なことはないかね』
『私が出發する時困らぬ樣にして置きましたから』
『然し長男が死んだのだから一時でもいゝ歸鮮したらどうかね』
『私が歸つたからとて死んだ東永が生き返るではなしまた子供が死んだからとてお國の爲に働きに來た者が直ぐ歸鮮する樣では皇國臣民とは言へません、勤勞報國隊員としての務を立派に果してこそ東永も悅ぶことゝ思ひますから歸鮮の手續きは執らない樣にして下さい』
寮長は『子供が死んだ位で歸鮮する樣では皇國臣民とは言へません』の言葉にいたく感激言葉も出ない程でした。
『君のそう言ふ氣はよく解つた。どうか體に注意して此後大いに頑張つてくれ』
十九日の朝休業中の松田君が作業服を着て事務

室に來たので係員は驚いて
『君は未だ體が本當ではないではないか』
『大した事はありません、部屋で何にもせんで居ると死んだ東永のことを思ひ出し氣が晴れません、氣が晴れないのは休んで居るためであり却つて體のためにもよくない樣ですから今日から仕事に行きます』
『も少し養生した方がいゝね、無理をしない樣に充分氣を付けなさいよ』
其の後の松田君の勤務ぶりは人々を驚ろかす程でした。
『子供の分まで働くのだ』と同室の者に洩らしたと傳へ聞いた寮長はいたく感動これこそ日本臣民だと思ひました。
尚本人は長崎縣協和會支部長より不日表彰せられることに確定し居れり。

〰農業報國青年隊〰……總督府では昭和十五年以來每年全鮮の中堅青年から三、四百名を選拔して朝鮮農業報國青年隊を結成し、農繁期に內

本府正面玄關に於ける朝鮮農業報國隊結成式

地に派遣してゐる。これは應召者を出した內地の農家に勤勞の奉仕をつとめると共に傍らその進步した營農法を體得しやうといふもので、既に第一回の昭和十五年には佐賀、熊本、大分、宮崎の四縣に、昭和十六年は山口、廣島、岡山、島根の各縣、十七年は奈良、三重、滋賀、岐阜、十八年は福井、石川、富山、長野の各縣に派遣してゐる。これら隊員はそれ〴〵應召農家に約一ケ月間起居を共にして農事を手傳ふもので、人手不足の農家からは心から感謝され、一ケ月の間には家族達と骨肉にもひとしい愛情に結ばれ愈々歸るときには別れ難い惜別の場面を描くなど、內鮮一體の美はしいそして最も效果的な實をあげてゐる。また一方昭和十四年からは盛夏の候をえらんで滿洲國に滿洲開拓義勇隊を送つてゐるが、これは青年隊と學徒隊に分れ、青年隊は鍬や鶴嘴で、學徒隊には醫療や技術の特技によつて建設奉仕を行ふもので、眞摯敢闘、學徒隊の中には現地で斃れ死の歸還をしたものもある。

錬成に精進する

斯くて戰ひぬく半島二千六百萬の決意は、ひたすら皇國臣民としての錬成によつて强化される。小磯統理の目ざす道義朝鮮の確立も、その目標に達する道はたゞ錬成の一路あるのみである。されば全鮮の官民は內鮮人の別なく老ひも若きも、男も女も、毎週月曜を錬成日として一齊に各職域に於て熱鐵の錬成に精進し、更に指導者は指導者としての自己を高める爲に資質の向上につとめつゝある。それは單に錬成日の行事のみで終ることなく、これを日常生活に實踐化し信念化することによつて、決戰下緊急に要請される增産も、決戰生活も、必勝の信念もすべては達成され强化されるのである。

第六章　躍進三十三年の成果

義務教育制への前進

一、教育施設の擴充……朝鮮に於ける教育の眼目は言ふまでもなく內鮮人の區別なく立派な皇國臣民に育て上げるにある。而も內鮮一體の完成は一に敎育に俟つといつても過言ではなく、從つて歴代總督の施政も教育の普及に深い努力が注がれてきた。然し內鮮人間の永年に亘る風俗習慣や言葉の相違から、便宜上その敎育機關は久しく區別されてゐた。即ち內地人の敎育機關はすべて最初から內地と全然同樣で義務敎育であるが、朝鮮人を收容する學校は普通學校（小學校）高等普通學校及び女子高等普通學校（中學校及び高等女學校）と稱されてゐたのであるが、その後一般民度の向上と、特に支那事變以來昂まつてきた愛國熱に應へて昭和十三年朝鮮教育令の改正が斷行されるに至つた。この敎育令の改正は單に過去二十數年間に亘つて朝鮮人に對する敎育機關であつた普通學校、高等普通學校、女子高等普通學校の名稱を解消し、原則として內鮮共學とされたのみでなく、小學校から大學に至るまで一貫して皇國臣民育成の敎育目標を明瞭にすると共に敎育方針も國體明徵、內鮮一體、忍苦鍛錬の三綱領に基いて敎科目の內容を根本的に改められたのである。次いで昭和十六年度からは內地と同樣小學校は全部國民學校となつた。

一方敎育施設も、明治四十五年に內鮮人側合せ

て僅かに五百三十五校、收容兒童數六萬六千に過ぎなかつた初等學校は逐次擴充されて、大正十一年に三面一校、昭和三年に二面一校、昭和十一年には一面一校計畫を完成し、翌十二年度には劃期的な初等教育擴充倍加六ケ年計畫が着手された。この結果同計畫完了の昭和十七年五月末現在の全鮮初等學校は內地人側官公私立合せて五百三十四校、九萬七千七百六十二名、朝鮮人側官公私立合せて三千百二十二校、百六十八萬九千百六十四名この他朝鮮人側私立認定學校百四十一校、六萬三千四百二十六名を加へると、朝鮮人兒童の就學率は推定學齡兒童に對して男子七割五分、女子三割三分、平均五割四分に達するに至つた。なほこの間昭和九年から未就學兒童に對する初等教育の補助的普及施設として、十歲以上の兒童を收容する修學年限二ケ年の簡易學校を開設し、その數も昭和十七年五月末現在一千六百八十校、收容者十一萬七千二百名を數へてゐる。從つてこれを加へると朝鮮人兒童の就學率は五割八分となる。

〔義務教育の實施決定〕……初等教育施設の飛躍的擴充に伴つて待望の義務教育制への目標は一步々々近づきつゝあつたが、昭和十五年八月總督は朝鮮教育審議委員會に對して義務教育實施の準備を命じ、更に徵兵制の實施決定と對應して翌十六年十二月、愈々昭和二十一年度から義務教育制度を施行する旨を發表された。同制度施行初年度たる昭和二十一年度には朝鮮人學齡兒童のうち男子約九割、女子約五割が國民學校に就學し得る豫定で、その義務年限は當分の間六ケ年とされてゐる。これは徵兵制の實施と共に總督施政の劃期的施策であることは勿論、これによつて朝鮮の國民教育は愈々全鮮に行亘り、皇民化の徹底に一段の進展をみるものと期待されてゐる。

〔國語の普及〕……國語を使用することは皇國臣民としての先決條件である。或は日本語を知らずして眞の日本精神を把握することは不可能で

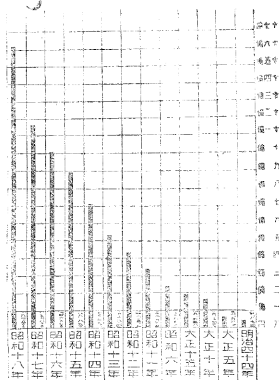
あるといつても過言であるまい。我が國三千年の光輝ある歴史と偉大な國民精神が國語によつて傳へられてきたことを知るとき、國語習得に對する朝鮮同胞の意慾は、一日も早く皇國臣民になり切らうとする熱意と共に最近非常に高まつてきた。然しこれまでの教育普及狀況からみて國語を解する者の數は統計上全人口の約二割となつてゐるがこれは老人から生れたばかりの赤ん坊まで含めた率であるので、成人の男子のみについてみるとき實際はその半分以上に普及してゐるとみてよからう。

從來國語普及の施設としては、各道に於て地方の實情に應じて部落講習會や個人習得の方法をとつてきたが、總督府では昭和十三年度から三ケ年計畫として各公立小學校及び簡易學校を中心に全鮮で一年一千個所の國語普及講習會を開催し相當の成績をおさめたのであつた。次で十六年度からは地方の中堅層たる青年隊員を中心としてこれが普及を强化してきたが、更に昭和十九年度から徵兵制が實施されることになり緊急普及を要する情勢に鑑み、青年特別錬成所の開設と相俟つて一段の徹底を期し、同錬成所では練課目六百時間の內約四百時間を國語の習練に當てゝゐる。各地及び團體の國語講習會には、一日の勤勞に疲れた身體も厭はず一里二里の道を通ふ若者や、中には子供を背にした母があり、すつかり頭の白くなつた老人もある。それを敎へる先生は大抵國民學校の敎員であるが、所によつては駐在所の警察官が當るなど敎へる者も敎へられる者も涙ぐましい情景がいたるところにみられる。また國民總力朝鮮聯盟では總力運動の重要實踐事項の一つとして國語の普及と共に日常生活に於ける常用必行の徹底に努め、從つて學校內は勿論、官廳、會社、銀行等では必ず國語を使用してゐる。

統計が示す經濟の躍進

〔豫算の膨脹〕……先づ半島經濟の飛躍を總督府歳入出豫算についてみてみやう。それは次表によつてわかる如く、明治四十四年の豫算總額は四千八百餘萬圓であつたのが、支那事變勃發の前年である昭和十一年には三億二千九百萬圓となり、更に昭和十八年度には總額十六億一千五百萬圓に達してゐる。卽ち施政以來事變の前年まで二十五年間に約七倍、其後の七年間に約五倍弱の膨脹である。殊に事變以來朝鮮が負擔する臨時軍事費は逐年累增し、昭和十二年度千百萬圓であつたのが十八年度には二億三百餘萬圓卽ち豫算額の外にその一割弱に相當し、事變以來七年間に五億五千萬圓を負擔してゐるのである。これは始政當初以來永らく中央政府から年々多額の補充金を仰いでゐたのが、今度は漸く朝鮮が窮屈な財政の中からでもその恩返しが出來るまでに成長したことを示すものである。

歳出豫算飛躍狀況

明治四十四年　大正五年　大正十年　大正十五年　昭和六年　昭和十一年　昭和十二年　昭和十三年　昭和十四年　昭和十五年　昭和十六年　昭和十七年　昭和十八年

〔產業の飛躍〕……始政以來朝鮮の產業が辿つてきた跡をみると、最初の約二十年間は農業中心時代であつたといへる。明治四十四年は總生產額三億八千萬圓のうち農產額のみで三億三千萬圓卽ち八六%以上を占め工鑛產額は二千百萬圓六%弱に過ぎず、滿洲事變の昭和六年でも總生產額十一億一千四百萬圓の內農產額が七億二百餘萬圓で

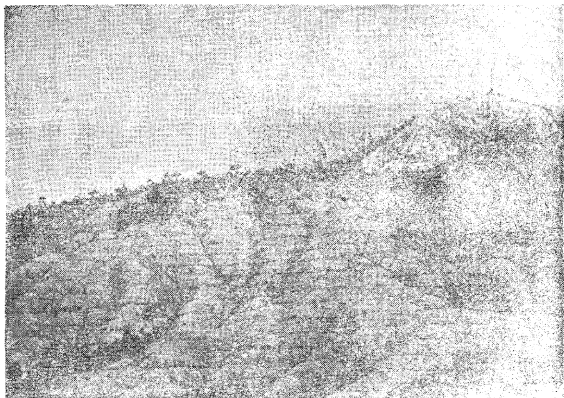
六三%、工産額は二億五千二百萬圓で一三%强である。それが昭和十六年には總生産額四十七億二千餘萬圓の内農産額は十七億八千三百萬圓で三七

	明治四十四年（千圓）	昭和十年（千圓）	昭和十六年（千圓）
農産	三三〇、二七〇	一、一四七、〇三五	一、七八三、六六一
畜産	—	—	一三六、〇三三
林産	一九、七九五	一〇四、〇〇五	三四四、二五九
水産	九、四一八	一三三、八八三	三五七、八五二
工産	一五、六四五	六〇七、四七七	一、七二三、三二五
鑛産	六、一八六	八八、〇三九	—
總計	三八一、四一四	二、〇九〇、五三九	四、七二四、七一三

%强に對し工産額は十七億二千二百萬圓で三六%强と殆んど同額になつてゐる。これを工産額の絶體額でみると滿洲事變以來十年間に七倍、始政以來約百十五倍の飛躍である。

この他昭和十八年六月末現在に於ける銀行、信託、無盡、東拓、金融組合等金融機關の貸出總額三十三億五千六百萬圓のうち工業部門への貸出が八億三千六百餘萬圓（二五%）で斷然首位を占めてをり、これに伴つて會社の數も飛躍的に增加し最近は統合整理が行はれてゐるとはいへ昭和十七年三月末現在で鮮内に本店を有するものだけで三千三百七十九社、その公益資本總額約二十二億圓に達してゐる。また昭和十六年末現在五人以上の職工を使用する工場數は九千五百六十六、その男女工員數二十八萬二千四百八十四人を數へ、昭和七年の工場數四千六百に對し十年間に二倍以上に增えてゐる譯である。これらの統計によつても近年鮮内工業部門の急激な躍進がうかゞはれるであらう。

禿山退治……人の頭髮も薄くなつてはそぞろ佗しさをおぼえるが、山も蒼々と樹木が茂つてゐてはじめて豊かな地味と人情が感じられる。その意味で曾つてうれしくない朝鮮名物の一つに擧げられてゐた禿山は李朝何百年かの秕政の表象でもあつた。一口にいへば濫伐の罪である。氣候的に朝鮮建の家屋はすべて床を土で固め、その下に土溝を通して薪を焚いた火熱で溫める溫突とい

ふ煖房裝置であるが、全鮮幾百萬戸がこれに焚く

段々畑のやうな方法で禿山は植樹される

薪の量は年々莫大なものである。老樹を伐り稚樹の枝を折り、地肌を護る落葉は悉く掻きとり、しかも伐りつ放しでそのあとに植ゑることを知らぬのであるから永年の間に山は全く赤裸と化し、雨が降れば忽ち洪水となつて實に慘憺たる狀態であつた。隨つて施政以來治山治水は歴代總督の重要施策の一つとして植林に最も積極的指導がなされ、三十有餘年の造林累計は六十億萬本、播種量も九百萬立に上り、特に明治四十四年以來毎年四月三日の神武天皇祭當日を植樹記念日と定めて全鮮官民擧つて綠化行事と愛林思想の普及に努力されてゐる。また植樹と併行して砂防事業も大正十一年以來實施され、赤肌の禿山に段々畑式の芝を植ゑ土砂の崩流を防ぐことにつとめてゐるが、要するにこれも植樹の根着きを效果的ならしむる爲の朝鮮獨特の風景である。一方山林のギャングといはれ、鬱蒼たる密林に火を放つて燒き拂ひその跡に原始的耕作をする一所不住の火田民が北鮮の密

林地帶を荒らしてゐたが、これも北鮮開拓事業と併行して定着指導が行亙り、最近では火田の被害も殆んど無くなつた。更に最近は特殊會社として林業開發會社の設置を見、計畫的伐採と植樹によつて半島綠化の成績は着々と擧げられ、曾つては荒寥たる名物の禿山をこれまで綠化したことだけでも朝鮮統治の治績は偉大なものがあるといはねばならぬ。かくて近年の林産總額は一億三千萬圓、併合當時の四十倍に上つてゐる。

水産の朝鮮……朝鮮の海岸線は屈曲に富み潮流氣候等の關係からも水産物は古來頗る豊富である。しかし併合前までは何ら指導的施設はなくたゞ漁民の原始的な沿岸漁撈に委ねられてゐたので、施政以來或は水産試驗場を設置して調査研究と指導に當り或は水産製品檢査所を設けて製品の改良を行ふなど鋭意これが保護指導に努めた結果、今日では漁獲高一億六千六百七十五萬餘圓、養殖生産高一千八百四十七萬餘圓、製造高一億七千二百六十三萬餘圓、合計三億五千七百八十五萬餘圓（昭和十六年）といふ大躍進を遂げるに至つた。殊に有名なのは北鮮日本沿海の鰮と明太魚で咸北と咸南の沿海は世界一の鰮魚場として飛行機による魚群搜査といふ大掛りな方法もとられ、十月の漁期に入ると全く鰮に明けて鰮に暮れる有様である。その鰮は食用としてより油として重要視され、動力用は勿論硬化油から石鹼や蠟燭が造られ、更に化してダイナマイトとなり糟は貴重な肥料となる。然し一兩年來この鰮もぱつたり不漁となり、當局では各關係方面を總動員してこれが原因探究につとめてゐる。明太魚は魚獲高では二千百二十八萬圓で最高を占め、その乾明太魚は內地人家庭にはあまり緣がないが朝鮮人の家庭には無くてはならぬ榮養食料で、卵は所謂めんたいの子として年産約四百萬圓、內地で馴染まれる朝鮮名産の一つである。水産製造物では年産千五百萬圓の乾海苔が斷然首位を占め、今日江戶の華名産淺

草海苔として賞味される乾海苔が、實は全南多島海一帶を産地とする朝鮮の海苔にレッテルを貼つたものとは意外に思ふ者が多いだらう。

交通、通信網の整備

延びる交通……關釜豪華連絡船で釜山に上陸して、北京行或は哈爾濱直行の急行列車に乘ると、坦々と窓外に展らける半島の山河と大陸列車の快適は、寢臺のまどろみも安らかに新義州まで九百五十粁を約二十三時間で走り、北京まで二千六十九粁を約四十九時間、哈爾濱まで一千七百七十粁を約四十一時間で着くことが出來る。今は歐洲戰爭で歐亞間の連絡も途絶えたが、曾つては陸路による唯一の歐亞連絡ルートとしてこの國際線を通過した人々の想ひ出は、今まだ新たなものがあるであらう。

滿洲と支那を、開いた一つの巨大な扇とすれば朝鮮半島はそれを支へる握り柄であり要に當る。國際線としてはこの釜山、新義州間九五〇粁の半島縱貫大幹線の外に、これと並行して釜山から蔚山、慶州を經て半島の脊髓小白山脈、東嶺山脈を橫ぎり京城に至る京慶線と、京城から元山、咸興清津を經て圖們で滿鐵の圖佳線に結ぶ京元、咸鏡線がある。更にこれら大幹線から枝の如く岐れて半島を縱橫に延びる總延長四千五百七十粁の國鐵線と、總延長一千六百三十一粁に及ぶ私鐵線こそ、戰ふ日本の有力な一翼としてその負荷された重大使命を遂行しつゝある朝鮮の文化、經濟、産業を培ふ血脈であり神經であり、更に大陸と內地を繫ぐ强靱な紐帶であるといへよう。卽ち內地向け米の輸出港としてまた內鮮連絡の新使命を負ふて急激な性格の變化を來しつゝある全南の麗水を中心に、木浦、群山にも通じ、大田で京釜線に結ぶ湖南線をはじめ、平壤から西、北鮮を橫斷して元山に至る平元線、平壤から滿浦鎭で對岸滿洲の輯安

と滿鐵線に結ぶ滿浦線、咸鏡線、吉州から鴨綠江岸惠山鎭に至る惠山線があり、この途中白岩から岐れて現在延社まで延びてゐる森林鐵道白茂線は日本一の高山鐵道であると共に、その沿線は朝鮮第一の木材産出地である。また京城、仁川間の京仁線、江原道及び慶北の日本海岸に沿ふて走る未完成の東海線、京釜線鳥致院から岐れて忠州に至る忠北線、金泉から慶北安東で京慶線に結ぶ慶北安東線、大邱から慶州に至り京慶線と繋ぐ東海中部線、三浪津から晋州及び馬山、鎭海に至る晋州線等が主な國鐵線である。この國、私鐵線總延長六千二百二粁は實に始政當時の五倍半に達し、この他總延長二萬五千八百粁に及ぶ自動車交通網と相俟つて今や半島の隅々まで足跡至らざるところなく、遍く文化の恩惠は「朝鮮の虎」物語りを昔の記憶へと追放したのみならず、戰局の進展は急速な海運の陸運轉嫁を要請し、こゝに半島鐵道の使命は益々加重されつゝある。また內鮮連絡航路としては關釜間二百四十粁の外に今度新たに釜山、博多連絡航路が强化され、淸津と裏日本を結ぶ北鮮新潟航路及び北線敦賀航路があり、麗水、博多航路も漸時强化されつゝある。

通信機關……交通に伴つて通信機關も急速に充實してきた。郵便局(特定郵便局を含む)の數は昭和十八年十月現在で一千七十九に達し大體三里半四方に一郵便局の割合である。航空路は最早通信といふよりも交通の部門に入るべきであらうが、これまた內地と大陸を結ぶ國際航空路の要位を占め、蔚山—京城—大連線及び京城—淸津線の二大幹線の外に京城—裡里間のローカル線もある。またラジオも通信部門といふより一般文化機關に入れるべきであるが、放送局は既に京城、平壤、新義州、淸津、元山、大田、光州、裡里、大邱、釜山の十局があり、その聽取狀況は昭和十八年八月末現在で內地人十二萬五千六百六十九名、朝鮮人十六萬二百二十六名、外國人千七百十

八名、計二十八萬七千六百十三名で、世帶百戸當り内地人七〇・一％、朝鮮人三・五％、外國人一〇・五％となり、今後あらゆる困難を克服して特に朝鮮人側の聽取普及が必要とされてゐる。なほこんなことは自慢にもならないが、京城郵便局の電報取扱ひと、手動交換である京城光化門電話局の交換度數は日本一の繁忙といはれる。

第七章　朝鮮の風物

金剛山と妓生が朝鮮の代表的風物とされた時代は既に過ぎた。そこには戰力增强を背景として新粧された近代的風物が續々と登場しつゝある。昔懷かしい鴨綠江の筏流しに代つて登場した世界的規模と技術を誇る水豐ダム及び赴戰湖をはじめ、或る意味で東洋一の工場都市といはれる興南、或は志願兵訓練所などもその一つであらう。金剛山も單なる觀光の對象から地下資源の寶庫として改めて見直されねばならず、また妓生の周衣（チマ）も戰時型に變へられてゆく。然し古代文化を誇つた三千年の歷史は文化史的に幾多貴重な史跡に富み、また金剛山が依然世界に誇る名勝たるの事實には變りない。その他古來山水の美に惠まれた半島は幾多名勝史跡を數へることが出來るが、それらを紹介の意味で拾つてみよう。

新しい名勝

その意味で筆頭に擧げられるのは赴戰高原である。咸興から私鐵で四時間、途中標高二千米の頂上に上る鋼索鐵道は千分の七十といふ急勾配でスリルも充分に滿喫され、それを上り切ると眼下に周廻十數里の人造湖が見下される。これは朝鮮に於ける貯水式水力發電の最初の計畫として、黃海に注ぐ赴戰江の流水を堰きとめて逆に日本海に落す爲に造られた大人造湖で、その周圍を白頭山に次ぎ朝鮮第二の高山と咲き亂れる高山植物のお花畑に抱かれる海拔千數百米のこの赴戰湖は、湖畔

に瀟洒な山莊もあり夏なほ涼しい高原の湖水美は朝鮮八景の一に擧げられてゐる。また鴨綠江の水豐ダムは近代朝鮮の産業が生んだ最も代表的名勝といへるであらう。筏節で知られる日本一の長江を堰き止めて、これまで世界一の人造建造物といはれた埃及クフ王のピラミッドを凌ぐ長さ九百米、高さ百二十六米、基底の幅九九米の大堰堤を築き、琵琶湖の半分、霞ヶ浦の二倍といふ大人造湖を造り上げた大工事は、科學日本の誇りであると共に自然に挑む人力の極致を思はせる。なほこの工事に要した總工費は二億八千萬圓で、昭和十二年九月着工以來あらゆる自然の暴威を制服して滿四年で完成をみた。

山水の美

しかし景勝としては何といつても金剛山は世界に誇る大景觀である。一口に一萬二千峰といはれる秀骨たる奇峰峻嶺は、途中に飛瀑あり、奔流、絕壁あり、あらゆる山岳美を錯綜してその雄大さは四季を通じて日本アルプスも遠く及ばない。

傳說の島全南の濟州島は朝鮮最大の島で海女の産地として有名であり、此處の住民達の風俗習慣や風物は半島よりむしろ內地に近いといはれる。朝鮮八景投票で最高點を得た漢拏山はこの島の中央にあつて、高くはないが富士山に似た裾をひく偉容は多種多容の高山植物で蔽はれ、背景に海を配した眺望は絕佳である。海には朝鮮の瀨戶內海と譬へられ同じく朝鮮八景に選ばれた全南の閑麗水道があり、海水浴場としては東海岸に元山の松濤園、西側で夢金浦（黃海道）大川（忠南道）南鮮松島（慶南）が有名である。序でに溫泉をあげると、流石に內地のやうな所謂深山幽谷を背景とする溫泉は殆んどないが、然し咸北の朱乙と平北の朔州溫泉は溪流と山の美を背景とし、幽邃の溫泉氣分滿喫出來、釜山近郊の海雲臺溫泉は海を背景

に内地の湯ヶ原あたりをおもはせる。また海雲臺の近くの東萊をはじめ、忠南の儒城、南陽、黄海道の白川、延安、信川など有名で、その他火山系の半島には案外に溫泉が多い。

山では金剛山は別として忠北の俗離山、平北の妙香山、慶南の海印寺溪谷は古來名刹と溪谷美で有名であり、海印寺の紅葉は交通の便は悪いが京都の嵐山以上といはれまた大藏經の版木も文化研究者の注目をひくところである。然し何といつても咸北の國境に跨る白頭山は最近學術研究や鍊成登攀で紹介され、この他慶南と全南全北の三道に跨る智異山、全北の内藏山、江原の雪岳山等名山が少くない。また京元線の三防峽は朝鮮佛教三十一本山の随一である釋王寺に近く、夏は溪谷、冬はスキー場として知られ、平北の妙香山に近い蝀龍窟は北米のマンモス鐘乳洞、山口縣の秋芳洞を凌ぎ全長二粁に近い世界一の大鐘乳洞である。

史蹟

早くから大陸文化を攝取して開らけた朝鮮は、幾多波瀾興亡の哀史と共に今なほ昔時を偲ぶ史蹟が尠くない。中でも慶北の慶州は新羅一千年の都としてその繁榮を誇つた地だけに數々の遺跡に惠まれ、有名な佛國寺、石窟庵をはじめ五陵、雞林半月城址、鮑石亭等燦爛たる當時の文化を物語りまた附近一帶に散在する無數の古墳群からは純金製の寶冠をはじめ、貴重な遺品の數々が發掘されて、慶州博物館におさめられてゐる。平壤は今も京城に次ぐ半島第二の都市としてまた近代工業都市として繁榮してゐるが、その風光と要害に惠まれた地形はその昔箕子朝鮮・衞滿朝鮮、樂浪郡の各時代に亘つて首都とされ、更に下つて高句麗二百五十年の王城の地であつたゞけに遺跡も多く、殊に大同江を見下す牡丹台一帶の景勝は朝鮮八景

の一つであると共に曾つての王城の跡であり、また附近から發掘される古墳群は絢爛たる樂浪文化を偲ぶ數々の遺品に富み、考古學界に貴重な史料を提供してゐる。

忠南の扶餘は百濟の舊都であり、當時我が國と最も密接な一體關係に結ばれてゐたことは改めて言ふまでもなく、今この地を內鮮一體の聖地として中堅青年訓練道場が建設され、官幣大社扶餘神宮の御造營工事が進められてゐる。一望に扶餘平野を見下す扶蘇山城趾の一角に立てば、千三百年の昔民家十五萬二千三百戶、人口七十萬と誇つた都の有樣が瞼に浮び、脚下を流れる白馬江に浮ぶ白帆はその昔遙々日本との間に往復したであらう船を思はせ、あの山、あの丘に美はしい內鮮一體に結ばれた遠い我らの祖先の血が通つてゐるかと思へば、皐蘭寺、落花巖、平濟塔などの遺跡と共にそゞろ懷古の情をそゝるものがある。

李朝五百十九年の王城の地であつた京城は、いま朝鮮總督府の所在地として引續いて半島統治の中心であり、比較的新しいだけに昔時の遺蹟も數多くまた完全に保存されてゐる。殊に漢江の流れに沿ひ、南山と北漢山に抱かれた市街は、南大門德壽宮、景福宮跡、昌慶苑等を配して獨特の都市美を形成してゐる。

第八章　大東亞の中核朝鮮

血の一體

〔內鮮の通婚〕……血に結ばれる內鮮の一體は、最近內鮮人の配偶關係增加にあらはれてゐる。その婚姻數は昭和十二年まで僅かに五十組內外に過ぎなかつたが、翌十三年には一躍九百七組十四年一千五組、十五年一千二百十三組、十六年には一千四百十六組と激增しつゝある。これを內譯別にみると、例へば昭和十六年には一千四百十六組のうち夫が朝鮮人で妻が內地人といふ組合せが一千三百三組を占め、反對に夫が內地人で妻が朝鮮人の場合が百十三組となつてゐる。この點家庭の子女に對する日本的訓育は、夫が內地人である場合よりも妻が內地人である場合の方がより好結果をおさめることは明らかで、喜ばしい傾向といふべきであらう。かく內鮮の血液的混融の促進は皇國の八紘爲宇的發展において大きな意味を有するものといふべく、而も表面この計數に入らぬ內鮮人の內緣關係は正式結婚よりも相當多く、更に內地では年々鮮內に於ける十倍の內鮮通婚が行はれてゐるといはれ、その全體の實數は非常に多いものと思はれる。

〔國旗の下にわれ死なん〕……かくて血の混融は朝鮮人の國體觀に新たな認識を昂め、日の丸の國旗の下に一死奉公の喜びを與へるのである。昭和十四年一月二十六日、忠北淸州郊外四州面司倉里に住む七十四歲の老翁李元夏氏は、その

病重く自ら起つ能はずと知るや、夜半ひそかに病床を拔け出し、自宅から一町以上も離れた國旗揭揚塔の前に至り、宮城を遙拜しつゝ合掌して大往生をとげた。當時の記錄によつてその最期を述べると、

〃翁はその前年例年の國民精神作興週間に際して、七十三歳の老軀もいとはず、率先部落民を率いて週間行事の實踐に精出したのであつたが晩秋の寒氣は一入深く疲勞も手傳つて到頭風邪をひいてしまひ『週間中途で休むのは御國や部落の人達に申譯がない』と殘念がりながら病床に就いたのであつた。その後大分快方に向ひ、翁も此の分ならまだ〳〵御奉公出來ると言つて、毎朝缺かしたことのなかつた國旗揭揚塔下の宮城遙拜も行ふ様になつたが、何せ零下十度内外の寒さのことゝて一月七日にはぶり返して再び病床の身となつた。妻女朴氏の手厚い看護も及ばす一月二十三、四日頃にはいよ〳〵重り、二十四日になると、翁も再起不能と悟つてのことであろう、夫人を顧みて『儂は一寸用事があつて行つて來る所があるが行つても心配するなよ』と云はれたとのことであつた。越えて二十六日午前一時頃、翁は夫人に『お前は看護のために疲れきつてゐる。少しでもいゝから睡つて休めよ、儂も今夜は氣分がいゝから睡れる』と云つていたはるのであつた。夫人が一寸假睡して目をさまして見ると、翁の姿が見えない。驚いて戸外に出て見ると閉めた筈の門が開いてゐる。翁が夜間部落を廻るときに用ひた手提ランプも見當らぬ。キット外に出たに違ひないとそれから大騷ぎとなり、近所の應援を得て探し廻つて國旗揭揚塔の下まで來ると地面に大きい黑いものが見える。恐る恐る近づいて見るとまさしく李元夏翁であつた。翁はキチンと坐つて兩手を地につけ、その上に額づき平伏してこときれてゐる。その横には常用の手提ランプが置か

れてある。これが忠誠報國の至情に凝つて、宮城を拜しつゝ國旗の下に大往生をとげた李元夏翁の崇高極りない最期の姿であつた〟

此の大往生は『國旗の下にわれ死なん』の標題を以て新聞に雜誌に掲載せられ、全鮮に深い感激を捲き起し、往生の地には立派な記念碑がたてられその除幕式には南總督の臨場の榮にかがやいたのであつた。翁は夙に敬神の念に厚く、每朝神棚に禮拜し、病床にあつても合掌默禱をさゝげて一日も缺かしたことがなかつたといはれる。此の内に固き敬神崇祖の念は、外に部落民に對する尊皇愛國心の鼓吹となり、昭和十二年支那事變勃發するや、時局認識に銃後奉公の實行に、七十二歲の老軀を提げて部落民を督勵し他方眞に赤誠の籠る國防獻金と國旗掲揚塔建設の費を得べく、部落民とはかつて砂防工事を請負ひ、自らも擔軍を背負つて工事に從つた。翁の得た勞銀は僅かに十二錢であつたといふが、これこそは實に尊い十二錢である。翁が最後の力をふりしぼつて臨終の場所を此の下に選んだ心情を汲むとき切々として胸を打つものがあるではないか。

李元夏翁

氏制度の創設

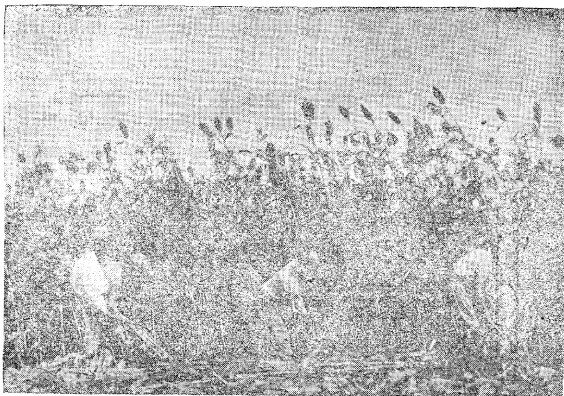
昭和十五年二月一日、恰も紀元二千六百年の意義深い紀元節を卜して朝鮮にも「氏」の制度が創設され、同時に内地人式姓名を附け得ることになつた。古來朝鮮人の姓は總戸數四百萬餘戸に對して僅か四百九十餘に過ぎず、而もその半數は永年の間に消滅したものが多く現在使用されてゐるものは僅か

に百五十餘で、中でも大姓である「金」姓は全體の二割一分、「李」姓は一割五分を占め、同姓同名の多いことまごつく程で姓名による個人識別を充分に果し得ない憾みがあつた。而も朝鮮では支那と同じく同本同姓は絶體に結婚しない慣習から結婚の範圍が極めて局限され、その爲に一人娘の場合でも他家へ嫁がせねばならぬなどの不便から朝鮮人一般が內地式の結婚と內地人式姓名呼稱を希望する者が多かつたのである。また古來『家門』が重要視されながら家名卽ち「氏」が無かつたため「金」姓に嫁いだ「李」姓の妻は依然主人の姓を名乘らず「金」某の妻「李」氏といふ譯で、我が國傳統の美風である家族制度を朝鮮でも强固にする必要から總督府の英斷となつたのである。從つて同制度の實施は朝鮮統治に劃期的意義を有するだけに果然朝鮮同胞に異常な感激と歡びをもつて迎へられ、それは昭和十六年末の「氏」設定戶數三百二十二萬六百九十三戶、卽ち總戶數の八割一分五厘に達したことによつても示される。なほ「氏」の設定は必ずしも內地人式の姓名にするものとは限らず、本人の希望によつて從來の儘の姓を以て「氏」としたものも相當あるが、大部分は內地人式姓名としたものが多く、例へば「金定植」さんは「金山定雄」となり、李秉敏さんは「李家敏夫」といふ工合にそれ〳〵創氏改名したのであつた。

約束される指導的地位

大陸建設に挺身……昭和六年九月十八日、奉天郊外柳條溝の銃聲一發に勃發した滿洲事變は我が國の大陸經營方針に一大決斷と飛躍を齎し、民族協和に基く王道樂土建設を目指す輝く滿洲帝國の誕生となり、同時にそれは朝鮮同胞にとつても大陸進出に確固たる基盤を打樹てられたのであつた。もと〳〵半島と滿洲との關係は鴨綠江

一つを隔てた陸續きであり、從つて朝鮮人の滿洲進出は古い歷史と變遷を經て、滿洲事變直前頃の在滿朝鮮人は一口に百萬と稱され、殊に咸北と接壤する間島省の如きは省內住民の三分の二を占める有樣であつた。然し當時滿洲軍閥の反日横暴は目に餘るものがあり、萬寶山事件をはじめ在滿朝鮮人に對する壓迫の度を加へ、これに堪え兼ねて歸鮮する者が續出するといふ憂慮すべき狀況であつたが、滿洲事變の發展はこの惱みを解決したのみか日滿一德一心に結ばれる滿洲帝國の建設によつて鮮滿一如精神の具現となり、爾來半島から滿洲に進出するもの年々五萬を數へる狀況で、昭和十六年末現在在滿朝鮮人總數百五十六萬、このうち間島省だけでも六十一萬九千人に達するに至つた。

これら在滿朝鮮人の八割までは農業に從事し、鍬の戰士として樂土開拓の第一線に活躍、東亞共榮圈の重要な一環である寶庫滿洲國の開發建設に挺身しつゝある。また總督府ではこれら同胞の保護指導に努力し、滿洲事變直後避難同胞の救濟と定着の爲昭和六年の鐵嶺を最初に續いて榮興（錦州省）河東（濱江省）興亞（北安省）三源浦（通化省）の五安全農村を設置して總戶數三千三百八十餘戶を收容（昭和十八年八月末現在三千六百三十九戶）、更に今後の移住者を定着させ統制指導するため昭和十一年滿洲國との協定によつて鮮滿拓植並に滿鮮拓植の兩會社を相互に創立、毎年の集團入植者一萬戶を目標に斡旋しつゝあつたが、昭和十二年の治外法權撤廢によつて元則として在滿朝鮮人の指導施設は滿洲國に移讓さるゝと共に、鮮滿拓植會社も解消して滿拓一本に統制された。これら開拓民達はいづれも樂土滿洲建設の土の戰士としての雄々しい自覺と信念の下に、內地人開拓民と共に興亞の前線に挺身活躍してゐるのであつて、昭和十六年秋には開拓農村の先頭をきつて榮興安全農村から赤誠こもる愛國機二臺を獻納さ

穫り入れにいそしむ満洲開拓青年隊

れ、故郷を離れてなほ烈々たる愛國の至誠を披瀝した。

一方中國に於ける在住朝鮮人は昭和十六年末現在で八萬七千、うち北支だけでその八割以上の七萬一千を數へてゐる。支那事變前後のこれら在支半島同胞の素質は劣悪な者が比較的多く、不正業などで我が現地機關の手を焼かせ、或は面目を傷つけるなどの不心得者も尠くなく、爲に一時は厄介視されたときがあつたことは事實であるが、事變後はこれら不心得者も現地機關による肅清と總督府其他の積極的指導によつて漸次更生の途を辿り、今日では皇國臣民としての自覺に目覺め大陸開拓の先達として活躍してゐる有樣である。總督府では最初支那事變勃發直後未だ治安も完全でない時既に北支河北省寧河縣の蘇運河のほとり蘆臺に模範安全農村を設置し、流浪不定業者を收容一千戸の定着指導に乘出し、更に昭和十八年春から大東亞省の施設として同樣欒縣に入植一千戸を目標に欒縣安全農村が建設され、現在既に蘆臺に八

百一戸、欒縣に八百十八戸を收容してゐる。殊に蘆臺模範農村はその名の模範に背かず入植二年目にして米作四萬石といふ收穫をあげ、その初穗を農村代表が持參して朝鮮神宮に感謝の獻米をしたのであつた。なほ北支在住半島同胞一般が兎もすれば一部の不心得者の爲誤解され勝ちであるが、それは大きな間違ひで例へば事變當時皇軍に直接協力し或は自警團として活躍した天津の朝鮮人義勇隊が軍當局から絶讃された如く、或は半島出身少壯實業家として單獨で陸海軍に四十七萬圓を獻金した華北煙草社長林薫氏の如き、天晴れ日本人として新秩序の建設に協力しつゝある人々があることを忘れてはならぬ。この他作戰の第一線には軍屬として事變以來通譯や自動車運轉手、特務機關などに活躍しつゝある者も多く、その中には皇軍將兵と共に砲煙彈雨の中を馳驅し壯烈護國の華と散つて恩賞の御沙汰を拜し、靖國神社に合祀の榮譽を擔つたものもあるのである。

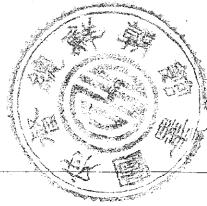
身も心も日本人に……かくて身も心も形も精神も漸時皇國臣民としての自覺を昂め道義朝鮮の確立にわき目もふらぬ二千八百萬朝鮮同胞の精進こそ、我が帝國の大東亞建設を推進する大いなる力であり、東亞十億の民を率ひる一億日本の四分の一を占め大和民族と共に今後に於て漸次これが中核となるべき光榮ある資格と使命を分擔されるものである。然しその光榮ある資格と地位は決して一日にして全體に附與される如き安價な生易しいものではないことを朝鮮同胞は銘記しておかなくてはならぬ。勿論中には既に忠良なる皇國臣民として自己を完成し內地人に互して些かの遜色ない人々も數多くあり、それらに對しては逐次やまと民族と同樣の資格と地位を附與されつゝあることは言ふまでもなく、たとへば官公署に於て或は銀行、會社、事業場に於て現實に指導的重要地位を與へられるところである。また一般朝鮮同胞に對する徵兵の實施もその最も大きなあらは

れであり、中には既に陸海軍將校として皇軍の中堅に登用されてゐる者もある。たゞ二千八百萬朝鮮同胞が揃つて今直に、生れながらに忠良なるやまと民族と同樣の資格を附されるには未だ民度にも精神にも相當の開きがあり、今後一層の朝鮮同胞自らの自己修錬と努力とを必要とし、更にまた兄分たる內地人の指導を要することは事實であらう。では二千八百萬朝鮮同胞がいつやまと民族と同一になり得るか、といふことは一口に云へば朝鮮同胞自からが完全に皇國臣民となり切つたその時である。それには今が最も惠まれた時期である。卽ちこの大東亞戰爭を如何に戰ひぬき、如何に一切を君國に捧げるかゞ試金石である。すべてを君國に捧げ盡し、戰爭を戰ひぬき、勝利の日を迎えたその時こそ名實共に榮譽ある大東亞の中核的指導者としての地位を與へられるであらう。而もその時期は必ずや近い將來であることを期待して我々は決して疑はぬ。また一方兄分たる內地人としてもすべて物事の發展には順序と段階があることを認識し、たゞ單に朝鮮同胞に對する要求のみに急嚴であることを誡め、大東亞共榮圈建設といふ大事業の觀點に立つて今後一層深い愛情と理解とを以て弟分たる朝鮮同胞の指導誘掖にあたるべきであらう。

南方開發と朝鮮……最後に目下着々と進展しつゝある南方開發と朝鮮の立場について一言するならば、それは悲觀どころか南方の資源が開發され促進さるればされる程朝鮮半島の前途は有望となり重要である、といふことが出來る。第一は國土計畫の上からみて北方大陸に備へ、また將來南方資源を利用し工業化するときに、あらゆる立地條件からみて半島こそはそれに最も適應した立場にあることである。況してや今直に南方資源が充分に國內で利用され得ない現狀においてはもとより、將來大東亞共榮圈の構想が、あくまでその中心を大陸におかるべきであることに想到するとき、我々はあらゆる角度から今一度朝鮮を見直さねばならぬことを強調するものである。

昭和十九年四月二十日 印刷
昭和十九年四月二十五日 發行

出版承認番號第11號
發行部數一・〇〇〇部

新らしき朝鮮奥付

㊙定價金六拾錢
送料金八錢

朝鮮總督府情報課編纂

發行者 京城府中區太平通二ノ四三
朝鮮行政學會代表者 大谷保

印刷者 京城府中區南米倉町一五九
大谷保

印刷所 京城府中區南米倉町一五九
行政學會印刷所

發行所 京城府中區太平通二ノ四三
朝鮮行政學會
電話本局一五八・一五九番
振替口座京城八一五番

配給元 京城府西大門區和泉町二
日本出版配給株式會社
朝鮮支店